

自由民主党浜松 B 視察

久米丈二

視察日程 令和5年12月20日(水)～22日(金)

視察先 福井県三方郡美浜町、福井県板井市三国町、石川県金沢市

視 察 日 12月20日(水)

視 察 先 関西電力美浜発電所

視察項目

- ・美浜原発発電所の現状等について
- ・巨大災害への対応策（備え）について
- ・廃炉計画について

説 明

美浜発電所は、1967年8月に1号機の建設に着工し、1970年11月に営業運転を開始した。

これは、日本の加圧水型商業炉としては最初のものです。

原子力発電は、発電時に二酸化炭素を排出しないため地球温暖化防止に寄与することや、経済性、供給安定性に優れていることから、低炭素化社会にむけての基幹電源として位置づけられている。

関西電力は原子力発電のパイオニアとして、世界最高水準の安全性も目指して、自主的かつ持続的に原子力発電所の安全性・信頼性の向上に全力で取り組んでいる、とある。

しかし、1974年7月1号機で蒸気発生器細管漏洩事故（6年6ヶ月間停止）、1991年2月2号機蒸気発生器伝熱管損傷事故（3年8ヶ月間停止）があり、特に、2004年8月3号機2次系配管損傷事故により、5名の作業員が亡くなり、6名の方が重傷を負う重大な事故が発生してしまい、この事故の反省と教訓を深く心に刻み、二度とこのよう

な事故を起こしてはならないという決意を毎年新たにしていくため発生日の8月9日を安全の誓いの日と定めている。

また、地震対策として、美浜発電所における、想定される地震の強さは750ガル、津波の高さは1,53㍎から1,57㍎で、津波対策とし若狭海丘列付近断層を安全側に90㍎都市、海底地滑り等重畳を考慮して津波」の高さを海拔+4,2㍎と評価し6㍎の防潮堤を設置したとの事である。

1号機2号機の廃炉工程は、2015年から意思表示し、2017年に廃止措置計画を認可、2021年に原子力規制委員会へ廃止措置計画変更の許可申告を行い、2022年は廃止計画認可、次に、2次系設備の解体撤去が始まった。

所 管

3度の事故の教訓から、安全対策、防災訓練などには地震で道路が寸断される事等を想定し、年400回ほど山間部を徒歩で出勤訓練や、発電所の進入路となる丹生橋が落橋していることを想定し、山の迂回路を徒歩で出勤する訓練など驚きであったが、しっかりと安全対策を取っているとの事でした。

また、地域貢献にも力をいれていて、地域のイベントや自治会への支援等多くの支援を行っている。

本市、近隣市の御前崎市にある中部電力浜岡発電所は、東北震災後停止しているが、津波対策等を重点に対策がなされているが、想定以外の災害が何時起こるとかもしれず、我が国の原子力発電所は最低限稼働し、新エネルギー等の研究を進め移行していくことと感じました。

視 察 日 12月21日(水)

視 察 先 新三国港市場

視察項目 新三国港市場の取り組みについて

説 明

福井県板井市三国町の三国港市場の大規模改修が完了し2023年3月21日リニューアルオープンした。

競りが見学できる部屋や多目的スペースを設けるなど新たな観光機能を加えた。地元三国港機舟底曳網漁協(底曳網)、三国港漁協(一本釣り)、雄島漁協(海女漁)の3漁協が新設した一般社団法人三国港市場が施設を管理し、2023年4月17日からは地場の水産物など市の特産を集めた日曜朝市を毎週開催している。

食の安心安全を提供し、多くの市民や観光客が集う市場を目指している。

市場は築50年と老朽化し、市は衛生、景観面の向上、観光機能強化を目的に2022年6月から改修を始め、事業費は3億2千万円で、出入り自由だった競り場に壁やシャッタ

ーを取り付け、汚水浸入を防ぐため床をかさ上げするなど衛生環境を向上させ、競り場は2023年の越前カニ漁解禁にあわせて共用を始めている。

地元板井市産木材を用いたルーパー、内装の柱も杉材を巻いて装飾し、にぎわい創出に向けては、一般の人が越前がにや甘エビの競りを見学できるガラス張りの部屋を新設した。多目的スペースでは、朝市に合わせて食を提供するほか、6次産業化に向けて漁業者と地元が協力して商品開発などに取り組む場としたい考えで、観光情報なども発信していく。市は県漁連との協議で市場施設を無償で譲り受けることになり、2022年末には三国港機船底曳網漁協、三国港漁港、雄島漁港が県漁連に代わる市場開設者として新会社を設立した。施設を管理し、市からの朝市事業を受託して、競り人は引き続き県漁連がつとめる。三国港市場は漁獲高の減少や漁師の高齢化など厳しい経営環境に置かれ、水産振興の拠点整備は長年の課題だった。坂本憲男市長は北陸新幹線県内延伸で多くの観光客を迎えるためのイメージアップが必要で、地元の3漁協と工夫で三国の魚を広く発信していくとある。

所 感

浜松市も中央卸売市場の改修を計画しており、見学観光コースなどを含めた改修等も必要と考える。また本市には舞阪漁港があり、豊富な魚種の水揚げがあります。

これらの魚種を浜松パワーフードの食材としていかして行く上で、浜松中央卸売市場内の食堂街整備等も必要と考える。

余談ではあるが、この三国港市場は福井駅からえちぜん鉄道で結ばれており、これらと連携していけば、更なる観光発展に繋がると感じた。

視 察 日 12月22日(金)

視 察 先 石川県金沢市

調査項目 金沢市・学生のまち推進について

説 明

金沢市役所市民局市民協働推進課にて「学生のまち推進」についての視察目的に訪問した。

金沢市は、金沢大学、金沢美術工芸大学、金沢学院大学、金沢星稜大学、北陸学院大学等、高等教育機関20校、専門学校33校、合計53校39,482名の学生がいる、学生数等全国比で新潟県の4,78に次いで全国2位の4,74で、人口1,000人あたりの学生数は京都、東京、大阪について全国4位の35,31人で正に学生の街である。しかし、課題として市民との交わりや町に対する関心の低下、金沢の歴史・文化に触れる機会の減少など、金沢の学都としての情景が薄まって、学生と市民が普段の暮らしの中で親しく交わり、学生がまちを学びの舎として、まちに溶け込み生き活きと学ぶ姿が薄まっ

ている、などの課題がある。

そこで、金沢市は平成22年4月1日施行の学生のまち推進条例を制定し、学生と市民、学生とまちとの関わりを深める為の全国初の条例である。

推進体制は、金沢学生のまち推進会議があり、その下部組織に金沢まちづくり学生会議、学生のまち地域推進団体があり、金沢まちづくり学生会議は学生のまちを市と協働で進めるための学生組織で、学生のまち地域連携団体は地域活性化のために取り組み交流するまちづくり組織である。

学生会議は令和5年度は58名の参加で様々な活動をしていて、まちと学生をつなげるきっかけづくりや、まちなかでの活動、商店街との連携などの活動をしている。

所 管

金沢市はこの活動を通し、多くの学生が市に残ってもらえ地域貢献につなげ、学生が若い発想で社会貢献してもらいたいとの事であった。

わたくし事ではあるが、娘がこの金沢の大学に4年居ました。その時金沢に行くたびに思っていたことが、なんて若者が多いまちなんだ、そして、あちこちで学生が何かやってるな、何でだろうと常々思っていました、その謎が解けた気がしました。

本市浜松は市街地に高等教育学校はなく学生も少ないです、しかし、少なからずもボランティア活動をしている方は居ます。

しかし、高校卒業と同時に都心部等に進学し本市には戻らないケースが多く見受けられる。本市も若者の街を目指すのであれば、やはり若者に好かれる魅力あるまちづくりをしていく必要を強く感じました、ちなみに家の娘は帰ってきて浜松で起業しています。

以上、視察報告とします。

令和5年12月25日

自由民主党浜松B班

久米 丈二

自由民主党浜松 B 班視察報告書

小泉 翠

① 美浜原発について

視 察 日 2023 年 12 月 20 日(水)

視 察 先 関西電力美浜発電所

視察項目 ・廃炉計画進行状況について

・稼働炉の状況について

・地域貢献について

説 明

美浜市は人口約 9000 人のまちで、原子炉の通常運転中に関係する従業員は約 1000 名、メンテナンス等含め稼働ピーク時で約 2400 名である。

関西電力では全発電量のうち約 30%が原子力発電に頼っており、管内の原子力発電所は加圧水型炉がほとんどである。発電方法は浜岡原子力発電所の沸騰水型と同様であるが、加圧水型炉の方が工程が多くメンテナンスにも時間がかかる。一方でタービンを回す水蒸気には放射性物質は含まれないことから、再稼働に対してはハードルが低い。

稼働中の 3 号機は視察の際には第 27 回定期検査中であった。2022 年から特定重大事故等対処施設として大型航空機の衝突等、テロリズムに対処するための施設として運用開始している。地震対策としては、想定される最大規模の地震の揺れを最大加速度 993 ガルと評価し国が許可している。(約 600 ガル以上で震度 7 想定) 津波対策としては、若狭海丘列付近断層を安全側に 90km とし海底地すべり等の重畳を考慮して津波の高さを海拔 +4.2m と評価し対策している。防潮堤は 2020 年 8 月に設置完了している。美浜発電所周辺地域は竜巻の集中する地域には該当しないが、日本国内で発生した最大風速(92m/s)を上回る 100m/s の竜巻が発生した場合に剛製材(135kg)が飛来する想定で対策している。

1 号機及び 2 号機の廃止措置については、現状第 2 段階に入っており原子炉周辺施設解体撤去を行っている。第 2 段階は 2022 年～2035 年までの 14 年となっている。

地域貢献としては、美浜町が行うお祭りへの協力、また関連会社の従業員も含め美浜町の宿泊施設の積極的な利用などを挙げていた。

所 感

美浜発電所では 2004 年に起こしてしまった事故により 5 名の従業員が命を落とし、6 名の方が重傷を負い、その出来事から安全面において特に配慮していると感じた。「機械は故障し、人はミスを犯す」という考え方を前提に取り組みを実施していると伺い、日々の訓練は 1 日平均 2～3 件ほどあるということで強い覚悟を感じた。また、訓練の中には美浜原子力 PR センターと原子炉がある場所をつなぐ橋が落ちた場合に歩いて向かう訓練

などもあり、あらゆるケースを想定している。

関西電力の発電事情は中部電力とは異なり、原子炉の種類も異なるため参考になる部分とそうでない部分はあったものの、テロ対策、地震対策、津波対策とその都度安全対策を強化し稼働してきたことがよく分かった。

見学した範囲では、地元がそれほど恩恵にあずかっているように見えなかったものの、お祭りやイベントへは積極的に協力しているとのことであった。この辺りは電力会社や発電所によって濃淡があるのかもしれない。一方で関連会社の従業員も含め、美浜町内の宿泊施設の利用回数は多いようで、Google マップで確認しても宿泊施設は他と比べ多くあり、美浜発電所の存在により存続しているようである。

加圧水型炉の方が安全性は高いが、メンテナンスには費用も時間もかかり、発電効率も沸騰水型に比べ落ちるが、やはり再稼働へのハードルは低いようである。原子力発電の再稼働を進めている関西電力では、管内の電気料も他に比べ安いところが多いようで、安全性を確保できれば原子力発電も選択肢の一つではあると感じた。



② 新三国港市場について

視 察 日 2023 年 12 月 21 日(木)

視 察 先 新三国港市場

視察項目 三国港市場独自の運営について

説 明

三国港市場では現在、三国港機船底引網漁協、三国港漁協（一本釣り）、雄島漁協（海女業）の3漁協が漁業を営んでおり、その3漁協で一般社団法人三国港市場を開設し、施設所有者は坂井市、卸売業者は福井県漁連三国支所が入り運営している。

平成30年当時県の卸売市場整備計画では、集荷機能向上が求められており、三国港市場については越前町に集約する計画が示されていた。三国に市場が無くなった場合、魚価の低下、陸送による新たな経費増、水産業に対する行政支援減、観光地としての魅力低下などが予見され、三国港市場存続のために平成31年3月に坂井市水産振興基本計画を策定し、三国港市場再生プロジェクトが始まった。組合長会議、坂井市三国港市場振興協議

会の会議を経て令和3年3月に三国港市場再生計画書が完成した。

市場の施設は坂井市が福井県漁連から譲渡を受けたのち改修工事を実施し、工事費は3.2億円であった。漁業者にも仲買人にも利用しやすい水産物流拠点を目指し、市内全ての水産物が集荷される拠点として、セリと合わせてセリで価格のつかない水産物の共同出荷や直売などの新事業を検討している。

市場活性化の支援策としては、一般社団法人三国港市場へ市職員を2名派遣、三国港市場施設での朝市開催を委託、三国港市場活性化促進事業補助金として市場の活性化に繋がる漁業者自らが考えた新たな取り組みに対する支援などを行っている。

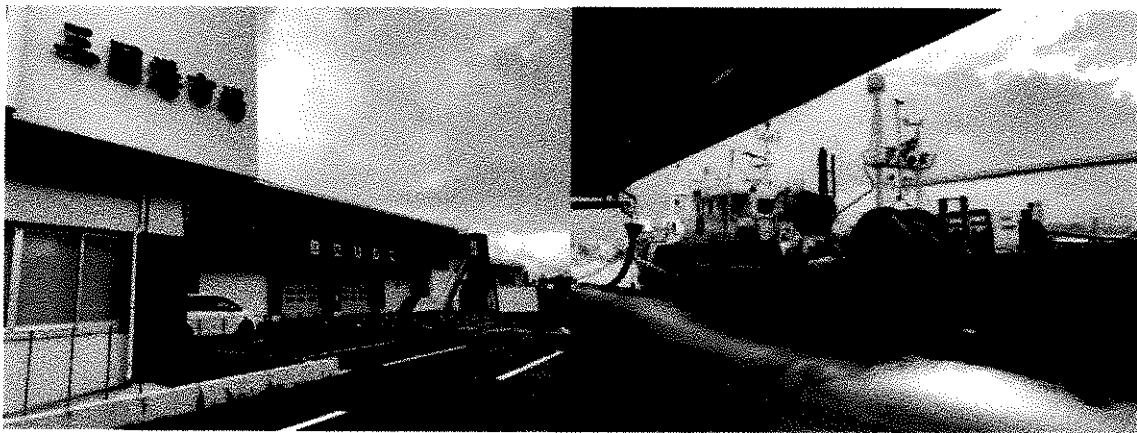
所 感

就業者の高齢化や後継者不足など全国どこでも起こっている問題を背景に進められた三国港市場の再生は、坂井市だけでなく市場を利用する漁協が漁協の枠を超え、水産業に関わるもの全体で協議することで一体感が生まれ、前進していったと感じた。

朝市を毎週開催することは運営面で厳しいこともあるがメリハリをつけて行っていると伺った。朝市の開催は大変な反面、開催することで地元市場があるという認識が広がり市民の関心が上がっている体感があるということで、SNSも活用しこれまで市場にかかわりが少なかった層に向けてPRしていることが分かった。

三国港市場周辺は東尋坊を始め多くの観光地が有り、地域全体での観光客誘致を目的とした再整備構想もあるため、その構想に合わせて市場施設を再整備する可能性はあるとのこと、現状観光地が点在していて繋がっていない印象を受けたため、その点に関しては改善されていくようであった。

漁協が使用する港を一般客に開放するにあたって、朝市の時間を午前中のみにするなど工夫が見られた。どこの市場であっても一般開放する場合、通常利用者との衝突を避けるような取り組みは必須だと感じた。一方で、中高生が見学に訪れる回数が増加し、地域の若年層に対する理解が広がり、職業選択のひとつになることに期待をしたい。



③ 学生のまち金沢について

視 察 日 2023 年 12 月 22 日(金)

視 察 先 金沢市役所

視察項目 学生のまち・金沢の推進について

説 明

金沢市には現在高等教育機関 20 校、専門学校 33 校合わせて 53 校、約 4 万人の学生が在学している全国有数の学都である。一方で、学生が下宿からアパート・マンションへ移行してきたことにより市民との関わりの希薄化や、まちに対する関心の低下、金沢の歴史や文化に触れる機会の減少が課題となっていた。そこで平成 22 年、「金沢市における学生のまちの推進に関する条例」という、学生と市民、学生とまちの関わりを深めるため全国初となる条例を制定した。

実際の推進体制としては、①金沢学生のまち推進会議（第 21 条）②金沢まちづくり学生会議（第 15 条）③学生のまち地域推進団体（第 16 条）の 3 者が相互に協力しながら進めている。

①学生のまち推進会議の構成員は、学識経験者、地域関係団体、市民活動団体等である。②金沢まちづくり学生会議は学生のみで構成され令和 5 年度は第 14 期として 10 の大学から 58 名が参加している。③学生のまち地域推進団体は、学生、住民、高等教育機関が地域活性化のために取り組み交流するまちづくり組織で、まちごとに作られている。

金沢まちづくり学生会議には金沢市から年 200 万円が委託料として支払われ、活動資金となっている。また、まちを知るきっかけとして OPEN CITY in KANAZAWA として大学のオープンキャンパスのように新入生に金沢の魅力と学生の活動を知ってもらうイベントを実施している。令和 5 年は 100 名程度が参加した。学生の活動拠点として「学生の家」を整備し、開館は 10~22 時まで。学生団体の利用は無料だが、市民団体等も有料で利用することができる。学生団体の活動としては、ごみ拾い、耕作放棄地の活用、金沢のカワイイの発信など多岐にわたる。

企業と連携し学生サポート企業制度を設立し、現在登録企業は上場企業を含め 22 社が登録している。

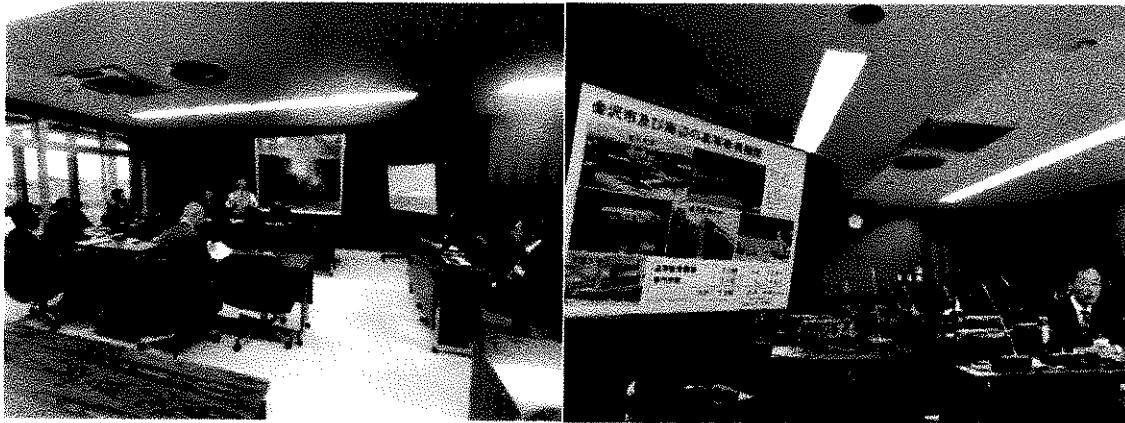
所 感

市として大学の枠にとらわれずインカレのような形で学生の活動を支援している点が非常に興味深い。また、金沢まちづくり学生会議に対しては市から年間 200 万円を拠出しているが、その使いかたについては市職員が過剰に関わらないようにしているとのことであった。学生の主体性を重んじながら、独創的で学生らしい活動を支援しつつ市としての成果をあげていくところに難しさがあると感じた。

市内在住の学生数に比べるとこの事業に関わっている学生数は限定的で、まだまだ改善の余地があるとも感じた。担当職員も言っていたが、企業との関わりが上手くできていないそうで、企業が学生団体に関わるメリットを市として出していけば、関わる学生もも

っと増えるのではないかと感じた。一方で、大人が関わりすぎると学生の主体性が薄れ、大人の反応を伺った活動になってしまうという点には共感した。そのバランスが難しいということと、学生が関わる期間は長くても3年程度であり、学生団体を運営していくノウハウの継承にも課題があることが分かった。

本市内にも大学や専門学校は存在しているが、大学の枠を超えた活動を本市が支えるようなことができれば面白いと思うし、学生たちにとって本市が第2のふるさとになり得る経験を提供できると考える。大人が適度に関わりながら大学と地域、企業を巻き込みながら運営することができれば新たな魅力の創出に繋がると確信した。

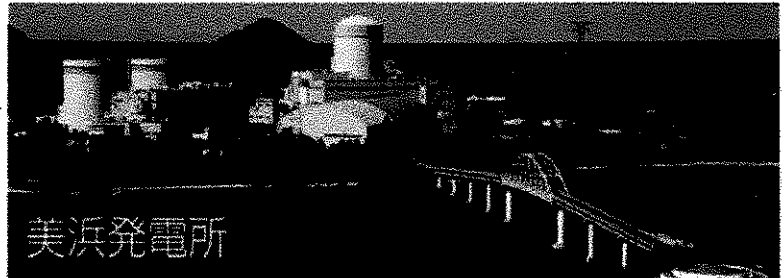


自由民主党浜松 B 班視察 藤田典良報告書

視察日程 令和 5 年 1 2 月 2 0 日（水）～2 2 日（金）

視 察 先 福井県三方郡美浜町、福井県坂井市三国町、石川県金沢市

- 視 察 日 令和 5 年 1 2 月 2 0 日（水）
- 視 察 先 関西電力美浜発電所
- 視察項目 廃炉計画の進行状況について
稼働炉の現状について
地域貢献について
- 発電所について



所在地： 福井県美浜町

運営会社： 関西電力株式会社（略称: 関電）

原子炉の種類： 加圧水型軽水炉（Pressurized Water Reactor, PWR）

稼働開始日： 1970 年に 1 号機が運転を開始し、その後 2 号機、3 号機と順次運転を開始している。

事故と安全対策： 美浜発電所は、1991 年に発生した美浜発電所 2 号機での冷却材漏れ事故があった。これを受けて、原子力発電所の安全性強化のための対策が行われている。

美浜発電所は、関西地域において電力供給の一翼を担っており、その運転状況や安全性には日本国内外から注目が寄せられている。

■説 明

関西電力管内で、美浜発電所を含む原子力発電所が賄う電力は、関西地域のおよそ 3 割ほどである。（現在稼働している原子力発電は 7 基）

美浜発電所が有する原子力発電の仕組みは、PWR（Pressurized Water Reactor）圧力水型原子炉であり、PWR は、高い圧力で水を使用する設計である。二重冷却回路で、冷却材として圧力下で保持される水があり、この水が再び発電機や冷却装置を通して循環している。燃料として通常はウラン 235 が使用される。PWR は、高い効率と安全性が特徴で、多くの国で使用されている。冷却材として水を使用するため、放射能の漏れや事故のリスクが低減されている。

中部電力浜岡原子力発電所は、BWR（Boiling Water Reactor）沸騰水型原子炉であり、BWR は、水を沸騰させて直接蒸気を発生させ、それを発電機に送る設計である。単一冷却回路で、冷却材として同じ水が直接蒸気を生成し、その蒸気がタービンを回して発電している。燃料は、PWR と同様にウラン 235 が使用されている。BWR は、PWR と比較してシンプルな構造を持ち、設計がややコンパクトであるが、冷却水が直接蒸気として使われるため、冷却材と発生した蒸気が一体化している点が異なる。

■PWR、BWRそれぞれのメリットデメリット

・PWR のメリット

一般的に高い発電効率を持っており、大規模な電力発生が可能。

圧力水型設計は、冷却材として水を使用するため、漏洩や事故において放射能の拡散が抑制される。制御棒により中性子の吸収が制御されやすく、運転が安定している。

- ・ PWR のデメリット

二重冷却回路や高い圧力を維持するための設備が必要で、これが複雑さとコストの要因となる。建設とメンテナンスにおいて高い初期投資が必要である。

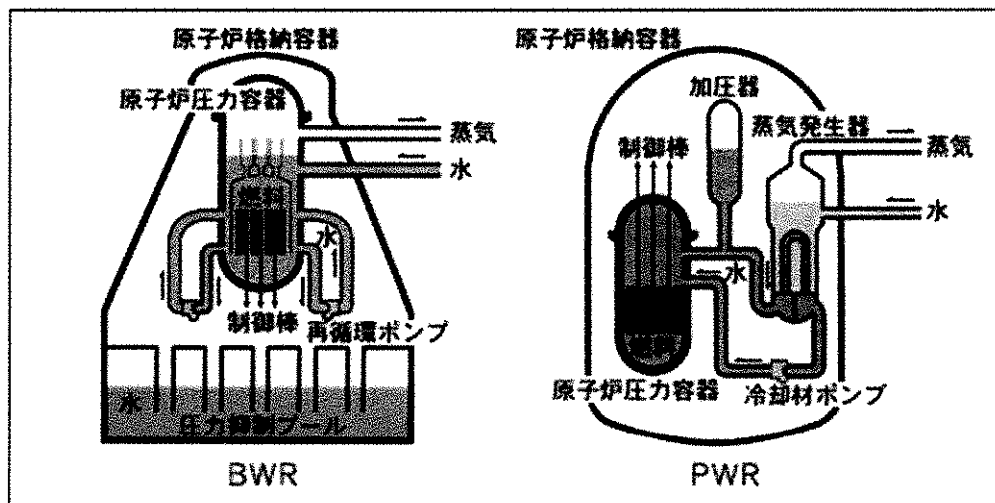
- ・ BWR のメリット

一重の冷却回路と直接沸騰した水蒸気を使う設計がシンプルであり、設備が比較的簡単である。設計がコンパクトであるため、施設の敷地面積が小さくて済む

- ・ BWR のデメリット

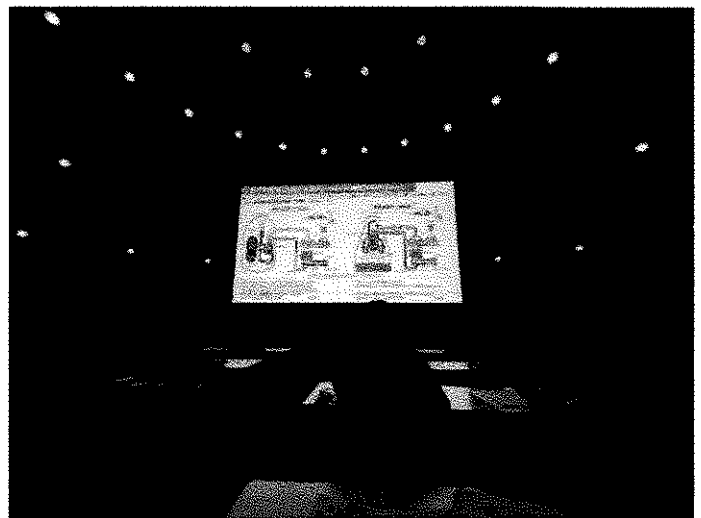
直接沸騰した水蒸気を使うため、一般的に PWR よりも効率が低い。

冷却水と蒸気が一体化しているため、事故時に放射能が大気中に漏れるリスクが高まる。



■安全性向上対策について

- ・ 新しい安全技術や設備の導入により、原子炉の制御や冷却、放射線管理などが向上している。耐震性の向上や、最新の安全基準に適合するための設備の改善も含まれる。
- ・ 運転員や関連するスタッフへのトレーニングと継続的な教育が実施され、異常事態や緊急事態に対する迅速かつ適切な対応が強化されている。
※緊急招集の訓練では、4時間かけて山側から出社する訓練が行われる。
- ・ 安全意識の向上と安全文化の確立が重視され、スタッフ間のコミュニケーションや報告体制の整備が行われている。
- ・ 設備や機器の定期的な点検、保守作業が行われ、劣化や潜在的な問題を早期に発見し、修復することで安全性を維持している。
- ・ 地震や津波、台風などの自然災害に対する防災対策が強化されています。耐震性の向上や津波対策が含まれる。現在、想定される地震の強さは750ガルであるが、993ガルまで耐えうる施設として強化されている。



■所感

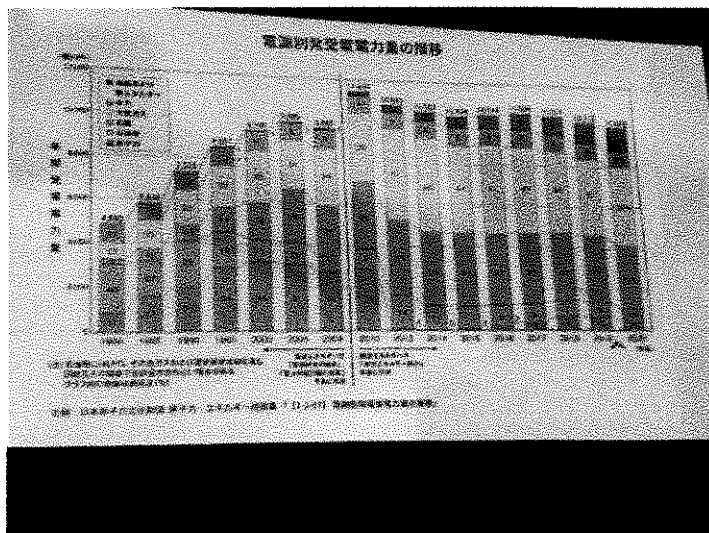
浜岡原子力発電所からおよそ 60 km 圏内にある本市は、原子力発電所が、万が一の事故や災害に見舞われた場合、対岸の火事では済まないのが現状である。そのためにも原子力発電の仕組みや機能、特徴などをよく理解し、そのうえで災害に備えた取り組みをすることが必要であると考えます。

美浜発電所で伺った緊急招集の訓練では、4 時間かけて徒歩で出社する訓練があることを聞き、本市でも災害が起きたことを想定した訓練で、徒歩での登庁訓練を行ってみることもよいのではないかと考える。万が一に備え、想定だけでなく実地訓練がいざという時の備えになり、経験から生かせることがあるように感じられた。

本市は中部電力管内であり、関西電力とは直接的なつながりがないことから、率直な質問をした。「中部電力は、原子力発電を再稼働させたいのか、させたくないのか？」と聞いたところ、「同じ電力会社としての肌感覚として、中部電力は原発を再稼働させなくても十分な電力を確保できるため、このまま再稼働させなくてもよいと考えているのでは。」との回答があった。

自分の安易な考えで、原発を再稼働すれば今の電気料金の高騰が抑えられるのではないかと考えていたが、実際の原子力で賄っている電力量はさほど多くないことが分かった。写真にあるように、原子力がまかなっている電力は全体の 4 % しかなく、地熱発電や新エネルギーの 12 % よりも低い。電力量の多くは石炭と天然ガスが占めており割合としては全体の 7 割であった。

本市としても、新エネルギーの開発と研究を推進するとともに、そのような企業を誘致し、浜松から発信できるような基盤を創出させたい。



- 視 察 日 令和 5 年 12 月 21 日 (木)
- 視 察 先 新三国港市場
- 調査項目 三国港市場独自の運営について
- 三国市場について

地方卸売市場「三国港市場」は、令和 4 年 3 月にリニューアルした。当市場は、福井県漁業協同組合連合会により、昭和 48 年から地方卸売市場として水産物の供給などを行っていた。令和 4 年 4 月より、さらなる市場の活性化を目指し、市内 3 漁協が協力し、一般社団法人三国港市場を設立し、漁業者自らが開設者

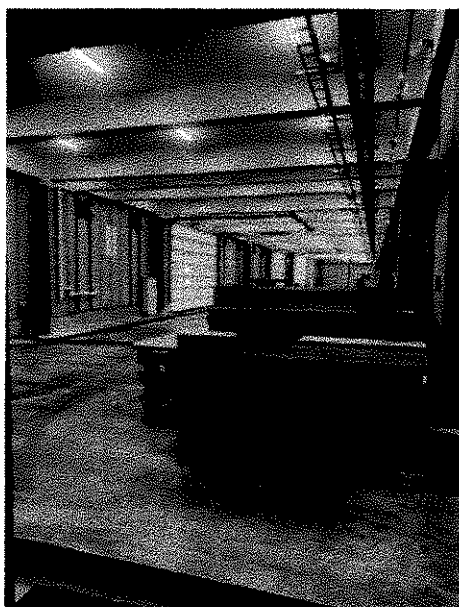


となり、運営を行っている。

三国港市場は、水産物などを取引し、小売店、外食事業者、加工業者へ販売する拠点となる地方卸売市場である。三国港市場では、三国の漁師が水揚げする水産物を専門に取引し、近隣の鮮魚店、問屋などへの販売を行っている。また、いわゆる「場外市場」を持っていないため、一般の方への小売りなどは行っていない。三国港市場は、全国でも珍しい、夕競りのみを行う市場で、朝競りは行っていないこともあり、一般の方にはなじみの薄い市場であった。そのため、より多くの皆様に親しまれる「にぎわいの市場」を目指し、毎週日曜日（冬季期間を除く）に「三国港朝市」を開催している。



■観光機能を備えた市場としてのリニューアル後の実績について



三国港朝市では、「港で朝ごはん」をテーマに、7:30～11:30にかけて朝食食堂、炭火焼ブース、物産等販売ブースを運営している。リニューアル工事で「見学室」を新設し、見学の受け入れも行っている。

○令和4年度朝市実施の実績

実施回数：32回（内イベント実施7回）

来場者数：延べ23,800人

朝食食堂利用件数：延べ6,115人

【課題として】

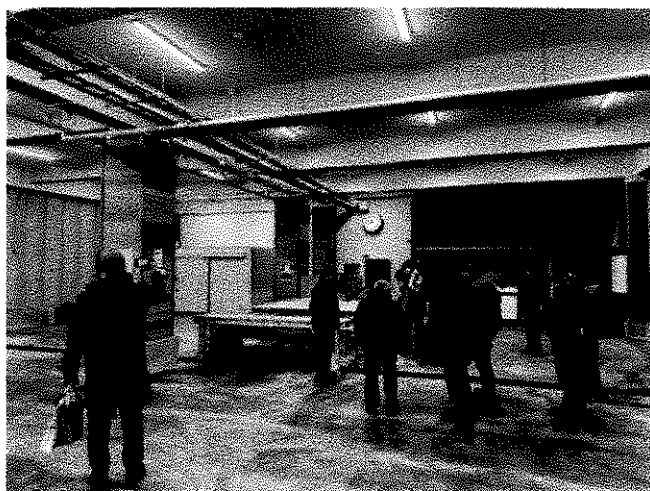
- ・営業時間が短く、出店者を増やすことが難しい。
- ・魚種を増やしたい。赤もの（保存がきき、料亭などが使いやすい）が多く、青ものが少ない。
- ・自然が相手なので漁獲量が不安定である。

■観光機能強化による成果と課題

○施設を活用して朝市を実施することで、これまで水産関係者しか利用しなかった市場が、一般の方にも利用されることとなり、特に市民に親しまれるようになった。

○競り見学室の設置により、地元中高生の研修の場として活用されることが増加し、地元の漁業や水産物の流通の仕組みについて伝える機会が増えた。

△北陸新幹線の開業により、増加が期待される観光客に対する朝市開催の周知方法や朝市を出発点に周辺観光地を巡ってもらうため場内での観光PR方法や関係団体との連携強化が挙げられる。



■所感

三国港市場の今後の展開として、現在の出荷量に対する施設規模が適正であると考えているため施設の拡大等は考えていないということであった。本市も、新中央市場の建設計画があるので、取り扱いの流通量と施設の規模が適正になるよう、しっかりと調査したうえで、設計を進めたい。また、観光機能を備えた施設とする場合、市場運営と観光施設運営とは別組織として、市場関係者を含めた組合等を設立させ、運営を分けたほうが良いと感じた。

三国港市場の近接地に「東尋坊」をはじめ多くの観光地があり、年間を通じて多くの来訪者があるため、地域全体での観光客誘致を目的とした再整備構想があるとのこと。本市においても、中央市場としての役割だけでなく観光客誘致につながるような施設として、交通アクセスなどの周辺整備にも注力したい。



■視 察 日 令和5年12月22日（金）

■視 察 先 金沢市視察

■調査項目 学生のまち金沢の推進について

■学生のまち金沢といわれる所以

- ・金沢大学（Kanazawa University）金沢市を拠点とする国立大学で、幅広い学部・大学院が存在する。特に芸術や理工学、医学などの分野で高い評価を受けている。

- ・金沢医科大学（Kanazawa Medical University）医学や看護学に特化した医科大学で、医療分野において専門的な教育を提供している。

- ・金城大学（Kanazawa College）

人間社会学部、医療福祉学部、教育学部などを有する私立の大学。地域社会に貢献することを目指している。

- ・金沢工業大学（Kanazawa Institute of Technology）

工学や情報学に焦点を当てた私立の工業大学で、技術者や研究者の養成に力を入れている。

このように国立や私学を含め、高等教育機関が20校、専門学校33校を合わせると53校の教育機関があり、街中にも多くの学生が見受けられる。東京も多くの校長教育機関を有しているが、人口10万人当たりの高等教育機関数は4.74であり、全国第2位となっている。また、城内に大学があったのは、ドイツ（ハイデルベルク）と金沢のみであり、学生の都「学都」として知られるようになった。

■学生のまち推進条例

条例の中に前文として以下のようなことが記載されている。

『私たちのまち金沢は、明治期に、加賀藩の藩校を源流とした金沢医学館や旧制第四高等学校などが開



学し、以後、数多くの高等教育機関を擁する学術文化都市として発展してきた。また、国内外から多数の学生が集まり、金沢のまちを学び舎やとして自らの知恵、能力、人間性を磨くことにより、学術、文化、経済など広く各界に俊英を輩出してきた。学生たちは、まちなかに集い、市民と憩い、談論風発するなど、日々の暮らしにおいて学生と市民とが相互に交流する姿は、にぎわいと活力の象徴として、「学生のまち・金沢」の歴史を刻み、今日に至っている。このような背景を踏まえ、未来に向けたまちづくりにおいて、地域社会が可能性豊かな学生を育み、学生と市民との相互の交流や学生と金沢のまちとの関係を深めながら、学生のまちとしての金沢の個性と魅力をさらに磨き高めていくことは、健全で活力に満ちた地域社会を実現し、金沢のまちが持続的に発展するうえで重要である。ここに、私たちは、学生のまちとしての伝統と誇りを継承発展させることにより、金沢を将来にわたり希望と活力に満ちた魅力あふれるまちとするため、この条例を制定する。』

■金沢まちづくり学生会議

- ・学生ならではのアイデアとエネルギーを生かして創造的なまちづくり活動に取り組む
- ・令和5年度は14期生、学校の枠を超えて活動し10の大学から参加し、58名であった。
- ・まちなか学生まつり：学生会議が企画し商店街、学生団体、企業と連携して運営している。

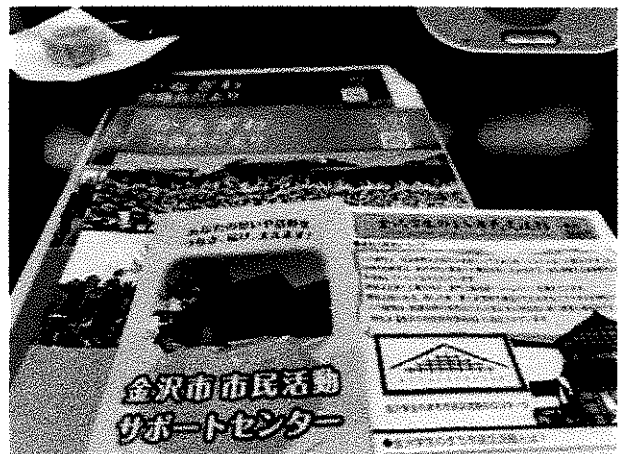
■金沢学生のまち市民交流館

- ・学生と市民の街中の交流拠点

「金沢学生のまち市民交流館」は、学生と市民のまちなかの交流拠点として設置された施設で、「学生の家」「交流ホール」の2つの建物からなる。

「学生の家」は大正時代の町家を改修した木造瓦ぶき2階建てのアズマダチの家屋である。施設内には誰でも無料で利用できるフリースペースがあり、観光の合間にひと休みしながら金沢の町家の歴史と文化を体感していただくことができる。また、施設内で展示イベントなどが行われることもある。

市民活動を支援する市民活動サポートセンターも館内に開設されている。



■学生にかける期待

- ・金沢に愛着をもつ「金沢でしか手意見できない学生生活を過ごしてほしい」
- ・まち全体をキャンパスに「金沢のまちの資源である歴史・文化を身近に感じてほしい」
- ・まちを元気に「社会的なマナーや決まりを遵守しつつ、何事にもチャレンジしてほしい。学生時代にしかできない失敗もいっぱいしてもらいたい」

■行政の役割

- ・学生の自主性を尊重しながら、金沢が将来にわたり希望と活力に満ちた魅力あるまちになるよう施策を策定する。
- ・学生と市民をつなげるプラットフォームづくり、まちづくりをより楽しいものにするプランニングする。
- ・取り組みを通じて、地域等の様々な課題を自分で見つけ、自主的に解決できるような人材を育成する。

■所感

学生が企業や地域との関りをもち、それぞれの利点をお互いに生かしながら協力してまちづくりを考えている。このことが年を重ねるごとに実績となり、今の学生の金沢のまちが伝統と共に新しさも築き上げられることを目の当たりにした。本市においても、静岡大学（工学部）をはじめ、浜松医科大学、文化芸術大学、常葉大学など高等教育機関があり、専門学校も少なくない。

現在、駅南に自動車専門学校が新設され、調理師専門学校が移設の話がでている。また、旧高砂小学校跡地に大学移転の話も聞かれるようになった。まちなか（駅南地区）に学生が集まる基盤ができ、学生間の連携と、行政や企業と連携を計れば、学生と共にまちなかを活性化し、駅周辺の再開発や再生を実現させることも夢ではない。少子高齢化が進む現在、過去から学びながら、将来を見据え、浜松で学んだ学生たちが浜松の良さを国内外に発信し、新たな浜松の魅力を創造していくことが重要であると感じられた。



旅 費 支 払 証 明 書																						
出張年月日	令和 6 年 3 月 25 日 (月) ～ 3 月 26 日 (火) 2日間																					
出張先 (目的)	A 班 行政視察 東京都 (東京豊洲市場) 会津若松市																					
出張者氏名	高林 修	須藤 京子	平野 岳子	井田 博康																		
	久米 丈二	露木里江子	小野田康弘	神間 郁子																		
	辻村 公子			(以上 9 名)																		
旅 費 額 内 訳																						
項 目	金 額	備 考																				
交通費	325,360 円	新幹線・在来線チケット代, 手配取扱手数料 9 名分 3/14 (株) サニートラベル支払い																				
"	6,240 円	3/25 ゆりかもめ乗車代 ①② 新橋駅 ～ 豊洲市場駅 往復 8 名分																				
"	7,130 円	3/26 タクシー代 実費 ③④⑤ ホテル ～ 総合庁舎 3 台分 3,540 円 (計 5 台分) ⑥⑦ 総合庁舎 ～ 会津若松駅 2 台分 3,590 円																				
宿泊費	133,200 円	@ 14,800 円 × 1 泊 × 9 名分																				
日 当	27,000 円	@ 1,500 円 × 2 日 × 9 名分																				
"	▲ 3,000 円	1 名、3/25 公務終了後 遅れて合流。 3/26 家庭事情 (急用) のため早期帰浜。日当辞退するもの																				
合 計	495,930 円																					
<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">金 額</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">百</td> <td style="width: 10%;">拾</td> <td style="width: 10%;">万</td> <td style="width: 10%;">千</td> <td style="width: 10%;">百</td> <td style="width: 10%;">拾</td> <td style="width: 10%;">円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>¥</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </table>					金 額		百	拾	万	千	百	拾	円			¥	4	9	5	9	3	0
金 額		百	拾	万	千	百	拾	円														
		¥	4	9	5	9	3	0														
上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。 令和 6 年 3 月 31 日 代 表 者 会 長 鳥井 徳孝																						
<詳細> ・ JR 切符・手配手数料代 1 件 【3/14 支払 (株サニートラベル)】 ・ 電車、タクシー代 7 件 実費 領収書添付																						

No 13370

領 収 証

6 年 3 月 4 日

浜松市議会
自由民主党 浜松 (A班) 様

325360 円

但 3/5-26 まで、手配料

内 訳

現 金 0

小切手

振 込

毎度ありがとうございます。上記の通り領収致しました。



株式会社 サニートラベル

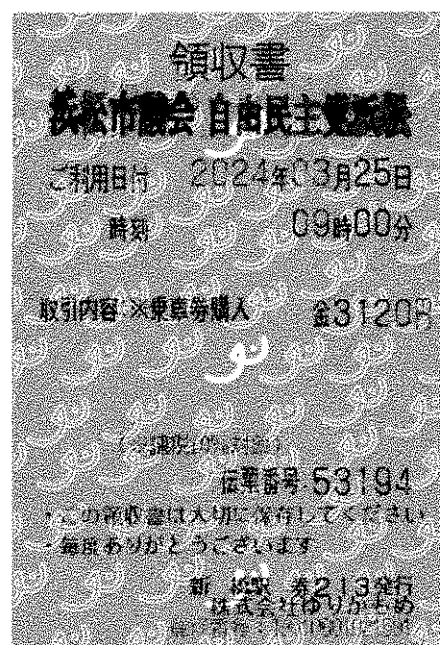
〒433-8125 浜松市中区和合
TEL (053) 478-3000
FAX (053) 478-3001

T8080401001994

担当

日付	項 目	人 数	金 額	
25	ゆりかもめ 新橋～豊洲市場 往復780円	4	3,120	①
25	ゆりかもめ 新橋～豊洲市場 往復780円	4	3,120	②
26	タクシー ホテル～総合庁舎	2	1,120	③
26	タクシー ホテル～総合庁舎	3	1,210	④
26	タクシー ホテル～総合庁舎	3	1,210	⑤
26	タクシー 総合庁舎～会津若松駅	4	1,750	⑥
26	タクシー 総合庁舎～会津若松駅	4	1,840	⑦
合 計			13,370	

3/25 ① ②



3/26
③

④

⑤

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 270号

2024年03月26日

乗車料金

¥1120円

立替金

円

(現金・チケット・クーポン)

上記の通り正に領収致しました。

登録番号:T1380001018564 消費税率 10%

葵 観光タクシー

会津若松市インター西8

TEL 0242-37-1533

喜多方市塩川町三吉字西畑21-3

TEL 0241-27-8111

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 272号

2024年03月26日

乗車料金

¥1210円

立替金

円

(現金・チケット・クーポン)

上記の通り正に領収致しました。

登録番号:T1380001018564 消費税率 10%

葵 観光タクシー

会津若松市インター西8

TEL 0242-37-1533

喜多方市塩川町三吉字西畑21-3

TEL 0241-27-8111

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 41号

2024年03月26日

乗車料金

¥1210円

立替金

円

(現金・チケット・クーポン)

上記の通り正に領収致しました。

登録番号:T1380001018564 消費税率 10%

葵 観光タクシー

会津若松市インター西8

TEL 0242-37-1533

喜多方市塩川町三吉字西畑21-3

TEL 0241-27-8111

⑥

⑦

領収書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 206号

2024年03月26日

乗車料金

¥1750円

立替金

円

(現金・チケット・クーポン)

上記の通り正に領収致しました。

登録番号:T1380001018564 消費税率 10%

葵 観光タクシー

会津若松市インター西8

TEL 0242-37-1533

喜多方市塩川町三吉字西畑21-3

TEL 0241-27-8111

計算書

毎度ご乗車ありがとうございます。

車両番号 233号

2024年03月26日

乗車料金

¥1840円

立替金

円

(現金・チケット・クーポン)

登録番号:T1380001018564 消費税率 10%

葵 観光タクシー

会津若松市インター西8

TEL 0242-37-1533

喜多方市塩川町三吉字西畑21-3

TEL 0241-27-8111

お客様№. 0099

請求書
24 年 3 月 15 日 締切分 (30) No. 1- 1

<静岡県知事選出第2-370号>
株式会社サニートラベル
〒433-8125
静岡県浜松市中区和合町936番地の503
TEL 053-476-0432
FAX 053-476-0565
担当者
登録番号：T8080401001994

浜松市議会 自由民主党浜松（A班） 御中

TEL: FAX:

前回御請求額	繰越金額	調整額	御入金額	御買上額	内消費税等	今回御請求額
			0	325,360	29,578	¥325,360

伝票日付	伝票№.	品名	数量	単価	金額	税率
24/ 3/14	137	2024年3月25～26日				
		J R代	8	35,880	287,040	*10.0%
		J R代（あいづ3号自由席）	1	35,350	35,350	*10.0%
		取扱手数料	9	330	2,970	*10.0%
		【合計】			325,360	
		(内消費税等)			29,578	
		税率 課税対象額 消費税等				
		10.0 ¥295,782 ¥29,578				

注) ※印は軽減税率(8%)適用商品

下記の口座に指定の期日までにお振込みください。
振込手数料は貴社(貴方)ご負担にてお願い申し上げます。

取引銀行 静岡銀行 葵町支店 普通預金 0346193
浜松いわた信用金庫 和合支店 普通預金 0648180
遠州信用金庫 本店営業部 普通預金 1080162
株式会社サニートラベル

送付御案内

6 年 3 月 14 日

自航運送松柳中

日頃は格別のお引き立てを賜り
厚く御礼申し上げます。
下記のものを御送付致しましたので、
御確認の程宜しくお願い申し上げます。

株式会社 サニートラベル
〒433-8125
静岡県浜松市中区和合町936番地の503
TEL: (053)476-0432
FAX: (053)476-0565

担当 XXXXXXXXXX

【】ご送付内容

① 書 類 _____
2 航 空 券 _____
3 旅 券 _____
4 クーポン券 _____
5 切 符 _____

6 パンフレット _____
⑦ 請 求 書 _____
8 領 収 書 _____
9 _____
10 _____

お送り先

JR a 明細 乙す。

。乗務 (浜松～金津若松 往復) 17620円

。乗務 (浜松～東京 往復) 8260円

。乗務 (東京～郡山 往復) 8940円

。乗務 (郡山～金津若松 往復) 1060円

(1名分) 5520円
往復(往復) 往復 5520円 × 8名
5520円 × 1名

Sunny Travel Co., Ltd

令和 6 年 2 月 27 日

会派名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者 会長 鳥井 徳孝 様

会派名 浜松市議会自由民主党浜松
氏 名 視察 A 班幹事 井田 博康

出張届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

1 出張者

高林 修 議員	須藤 京子 議員	平野 岳子 議員
井田 博康 議員	久米 丈二 議員	露木里江子 議員
小野田康弘 議員	神間 郁子 議員	辻村 公子 議員

(計 9 名)

2 期間及び出張先

令和 6 年 3 月 25 日 (月) ～ 3 月 26 日 (火) 2 日間
東京豊洲市場 ・ 会津若松市

3 目的

東京豊洲市場 : ①中央卸市場豊洲市場の役割について
②観光市場としての役割や取組について

会津若松市 : 会津若松市スマートシティの取組について

視察依頼書送付願

令和 6 年 2 月 27 日

浜松市議会議長 戸 田 誠 様

会 派 名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者氏名 会長 鳥井 徳孝

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

自由民主党浜松 A 班視察日程表

視察日程 令和6年3月25日（月）～26日（火）

視 察 先 東京豊洲市場・会津若松市

視 察 者 高林修 須藤京子 平野岳子 井田博康 久米丈二
露木里江子 小野田康弘 神間郁子 辻村公子

3月 25日 (月)	【集合：浜松駅新幹線改札口前7：10集合】 浜松駅 7：23 === 8：34 品川駅 === 8：47 新橋駅 === ゆりかもめ (ひかり632) (山手線) (ゆりかもめ) 9：25 市場前駅（徒歩） <視察> 10：00～13：00 調査項目 ・中央卸市場豊洲市場の役割 ・観光市場としての内容 13：00 市場前駅 === 新橋駅 === 東京駅 14：36 (ゆりかもめ) (山手線) === 15：57 郡山駅 16：15 === 会津若松駅 17：21 徒歩 (やまびこ65) (あいず5) 《会津若松市・泊》	豊洲市場担当者 (昼食) 豊洲市場内 豊洲千客万来（各自） (夕食) 会津若松市内 【宿泊】アルファワン会津若松 福島県会津若松市駅前 町5-8 TEL 0242-32-6868
3月 26日 (火)	【集合：ホテルロビー 8:15】 ホテル 9：09 === 10：00 <会津若松市役所> 10：00～12:00 調査項目 会津若松市スマートシティーの取り組み 会津若松駅 13：30 === 14：36 郡山駅 15：06 === (あいず4) (やまびこ62) 16：24 東京駅 17：03 === 18：31 浜松駅 お疲れ様でした	会津若松市議会事務局 担当者： TEL (昼食) 会津若松駅周辺 (各自)

A0301

令和 6 年 3 月 31 日提出										
(あて先) 会派名 浜松市議会 自由民主党浜松 代表者 会長 鳥井 徳孝 様										
報 告 書										
出張年月日	令和 6 年 3 月 25 日 (月) ~ 3 月 26 日 (火) 2 日間									
出張先	東京豊洲市場 ・ 会津若松市									
出張の理由	会派行政視察 (A 班) 【東京豊洲市場】中央卸売市場の役割について 観光市場としての役割や取組みについて 【会津若松市役所】会津若松市スマートシティの取組みについて									
出張者氏名印	<table border="0"> <tr> <td>高林 修</td> <td>須藤 京子</td> <td>平野 岳子</td> </tr> <tr> <td>井田 博康</td> <td>久米 丈二</td> <td>※ 非公称, 露木里江子</td> </tr> <tr> <td>小野田康弘</td> <td>神間 郁子</td> <td>辻村 公子</td> </tr> </table> (計 9 名)	高林 修	須藤 京子	平野 岳子	井田 博康	久米 丈二	※ 非公称, 露木里江子	小野田康弘	神間 郁子	辻村 公子
高林 修	須藤 京子	平野 岳子								
井田 博康	久米 丈二	※ 非公称, 露木里江子								
小野田康弘	神間 郁子	辻村 公子								
(出張の顚末) 別紙 報告書の通り										
(備考)										

※やむを得ず理由により3/25,26視察出来ず報告書無。

自由民主党浜松視察報告書

井田博康

視察日程 令和6年3月25日（月）～3月26日（火）

視察先 東京都豊洲市場・会津若松市

視察内容 ・豊洲市場について
・会津若松市スマートシティの取組みについて

視察議員 高林 修、須藤京子、平野岳子、井田博康、久米丈二、露木里江子、
小野田康弘、神間郁子、辻村公子

視察日 令和6年3月25日（月）

視察地 豊洲市場
東京都江東区豊洲 6-6-1

調査目的 ①中央卸売市場豊洲市場の役割について
②観光市場としての役割や取組みについて

説 明

中央卸売市場は、毎日の生活に欠かすことのできない水産物・青果物・食肉・花きなどの生鮮食料品等を円滑かつ安定的に供給する流通拠点で、東京都では11の中央卸売市場が、国内外から大量に多品種の品物を集め、公正かつ迅速な取引により、都民をはじめとする消費者の食生活と暮らしを支えている。中でも大田市場は青果物に関しては日本最大の取扱量である。

豊洲市場は、平成30年10月11日に開場し、50年先まで見据えた首都圏の基幹市場として築地市場が築いてきた歴史と伝統を継承・発展させていくことで、市場の魅力・ブランド力を高めていく4つのポイントを目指して作られました。

1つ目は「食の安全・安心の確保」です。以前の開放型から閉鎖型施設にすることによって商品特性にあったエリアごとの適温管理が可能となるほか、外気や虫、ホコリの流入を抑制することができるようになりました。

2つ目は「省エネに取り組む環境への配慮」です。都内最大級の太陽光発電などの自然エネルギーを活用するとともに、外気冷房システムやLED照明などの省エネ機

器の導入や、緑化も行っていくようにしています。

3つ目は「効率的な物流の実現と新たなニーズへの対応」です。卸売場や仲卸売り場付近に駐車スペース、荷捌きスペースを配置することにより、円滑な物流を実現しました。また、新たなニーズへの対応として、専門小売店、食品スーパー等から求められる加工・小分け・包装等ができる加工パッケージ施設を整備した。

4つ目は「地域と連携し活気と賑わいの創出」千客万来施設事業をはじめ、豊洲地区の外周を囲む豊洲ぐるり公園と一体的に屋上緑化広場を開放するなど、地域の賑わい創出に取り組んでいます。来場者は年間260万人を見込んでいる。

築地市場に比べ豊洲市場は面積的には1.8倍であるが鉄道輸送中心からトラック輸送中心に移行し駐車場部分の面積が増え、店舗面積はほぼ変わらないとのことでした。

その他千客万来や飲食店舗、見学者コースやPRコーナーを見学しました。また、仲卸の方々の作業スペースや屋上緑化広場も見学させていただきました。

所 感

入荷のトラックと仲卸のトラックの出入り口が決まっていたので渋滞が起きないような配慮がなされていてとても分かりやすかった。また、千客万来や飲食店舗、見学者コースやPRコーナーの来場者は電車の駅やバスの停留所が分かりやすいところに配置されていて海外からの観光客にも配慮しているように思えました。

市場の中は見学の時間が遅かったので店舗が締まっているところが多かったが空き店舗はほぼ見当たらなかった。浜松の市場と比べてはいけませんが、店舗を利用したくなるような運営を考える必要があると感じた。

市場の機能として関連事業者として、市場利用者のための関連食料品や包装資材、梱包や運送等のサービス期間を置くことは、小規模の市場利用者や場外での販売にも利用できると思うので、今後の計画の中で検討していく必要があると考える。

豊洲場外江戸前市場と温浴施設の万葉倶楽部は、交通アクセスや立地、用途地域等の問題があり、浜松の中央卸売市場には当てはまらないと思いますが市場の一部に場外市場のような施設は取り入れることができると思う。

豊洲も京都の中央卸売市場も市場の機能だけではなく、見せる・学ぶ・感じる（食べる）要素があって活気を感じられる施設であることが重要であると思った。生鮮食品や土産物などが購入できる場外の店舗や飲食ができる店舗が併設されると人が集まり活気が出てよくなると思った。人を集めるための万葉倶楽部のような温浴施設などの併設は有効であると感じた。

視 察 日 令和6年3月26日（火）

視 察 地 会津若松大手町第2庁舎1階
福島県会津若松市大手町2-41

調査目的 会津若松市スマートシティの取組みについて

説 明

会津若松市が計画した事業は、市民生活に関わる多くの分野を「食・農」「観光」「決済」「ヘルスケア」「防災」「行政」の6つの分野で ICT やデジタル技術を活用したサービスの取組みを進めている。これまで市が進めてきた事業の中で、早い時期にサービスの開始が可能であると見込まれるものである。これらのサービスがバラバラにならずに一体的に進められるよう、これまで活用してきた「会津若松+」をベースに、データ基盤の整備や改修を行っていく。「デジタル田園都市国家構想推進交付金」による支援を活用し、令和4年10月以降順次サービスを開始している。

デジタル田園都市国家構想推進交付金ポイントは3つあって1つ目は、ICT の活用や会津大学との連携による地域課題の解決で、しごとづくりや企業集積の好循環を育てる。2つ目は今までの「会津若松+」で取り組んできた成果を活かし、今後は官民・民民連携での複数のサービス提供を進める。3 つ目はスマートシティ AiCT(アイクト)や AiCT コンソーシアムを最大限活用することを重点に置いている。

「食・農」の分野においては、地元農家の生産情報と市内飲食店などの需要を引き合わせ、直接農産物の取引ができるサービスを提供している。令和4年10月から、需給マッチングアプリ「ジモノミッケ」で農家約30人と飲食店・宿泊施設など約30軒で取引が始まっている。

「観光」の分野においては、観光支援サービス「Visitory」（ビジトリ）として視察や観光だけでなく市民の皆さんも市内の飲食店や一部の店舗のリアルタイムの営業情報を見ることができるサービスが始まっている。また、在宅ケア支援アプリにより本人の情報を家族やケアセンターが共有できるようになった。

「決済」の分野においては、デジタル地域硬貨「会津コイン」を使ったキャッシュレス決済で買い物情報と連携し、アプリで健康情報を提供する。令和5年度会津若松市プレミアムポイント事業として令和5年12月～令和6年2月末までの期間でプレミアム率25%（10,000円で12,500ポイントが買える）の事業を行った。この事業は、

市民はポイントが付かない代わりに 25%分の消費がお得になり、店舗はPAYPAY などを利用された場合は手数料を約 3%払わなければならない、加えて PAY PAY などからの入金が遅れるが「会津コイン」は即日入金されるので店舗も得をする。行政は手数料の約 3%が市内の消費に回っていく為、市民・店舗・地域の三方良しに繋がる。

「ヘルスケア」の分野においては、家庭血圧や医療情報をアプリを使って自動で管理・閲覧できると共に、医療機関とも連携できる。令和 4 年 10 月から高血圧者向けオンライン診療サービスを開始した。

「防災」の分野においては、自主防災に取り組む町内会と共に、防災アプリの開発を進め、令和 5 年 3 月からスマートフォンの位置情報を使って災害時の家族の安否確認や避難所への誘導を行うサービスが可能になっている。

「行政」の分野においては、オンラインの申請や、市が持つ住所や氏名などの情報を自動で申請書に記載する「書かない」サービスを提供している。引っ越しに伴う各種手続きで「ゆびナビぷらす」を利用して、スマートフォンでの申請書の事前作成や窓口でのタブレット入力で「書かない」申請が可能になった。

産業面やコミュニティ面ではデジタル技術とを農業に取り入れ、特に水分量の管理して AI が水をまくなどの研究がなされている。また、ドローンを活用した農薬の散布も並行して進めている。コミュニティの面では高校生が小学生にプログラミングを教える事や会津ラボ事業として協働センターなどで高齢者にスマートフォンの使い方を教えたりして他世代間交流を生んでいる。中山間地域の市役所からの情報、地域防災情報、地域デマンドバス情報、高齢者の見守りに関しては、みなとチャンネルというテレビを利用したサービスを展開している。

会津若松市として長年に渡り懇願していた理数系の 4 年制大学が 1993 年にコンピューター専門大学として公立の会津大学が開設された。元々は富士通の向上が多くあった場所に創設され、酒のデジタル分析などの酒蔵の企業との連携により 9 年連続新酒の部門で金賞を取るなど地元企業にも大きく影響を及ぼしている。

会津大学はコンピューターに特化した大学であることから協議プログラミングが盛んで、2009 年 ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト世界大会で世界 88 か国 1838 大学が参加し 49 位対の成績を上げるなどその後も活躍している。

このような状況下の基、TIS インテックグループの TIS 株式会社（本社：東京都新宿区）スマートシティの取組みで先端を走る会津若松市の ICT オフィス「AiCT(アイクト)」内にプロジェクトルームとして拠点を開設することを発表した。AiCT コンソーシアム 2021 年 6 月に設立され、キャッシュレス、ロボティクス、ヘルスケア分野の新たなソリューション創出を目指している。現在では、都心の企業から市内に機能を移転

した ICT 関連企業と地元企業が連携し、地域における DX を推進している。

所 感

会津若松市が計画した事業は、市民生活に関わる「食・農」の分野での需給マッチングアプリはロスが少なくとても合理的であると思う。今はまだ30件程度であるがこれが増えれば従来の流通ルートが大きく変わってくるように感じる。兼業でやっているような生産量の少ない農家には効果的であると感じた。

「観光」の分野での「Visitory」(ビジトリ)では主に食や土産に重点を置いている様であるが、本市も同じ様な事は既に行っているが会津には無いマリノレジャーやマリンスポーツの体験などの分野もプラスして、どこに行けばいくらかで体験できるなど、写真付きで試してみれば新たな流れができると思った。

「決済」の分野でのデジタル地域硬貨「会津コイン」を使ったキャッシュレス決済での会津若松市プレミアムポイント事業はコロナ渦の時の飲食店救済のための施策を思い出させるような事業で、市民・店舗・地域の三方良しに繋がる素晴らしい事業であると感じた。

「ヘルスケア」の分野については本市では中山間地向けにオンライン診療を進めているが会津若松市のように中山間地以外の市民向けに展開することも良いことだと感じた。

「防災」分野についてはスマートフォンの位置情報を使って災害時の家族の安否確認や避難所への誘導を行うサービスは本年起きた能登の震災のような大きな震災が起こった時に本人の位置情報が分かる事は救急活動に大きくプラスに働くと考えられるので本市でも取り入れるべきであると感じた。家族の安否確認や避難所への誘導も重要な事であると思うので実際に避難訓練もこのサービスを利用して行ってみたいと感じた。

「行政」の分野では本市が進めているサービスと同じような感じではあるが、会津ラボ事業として協働センターなどで高齢者にスマートフォンの使い方を教えたりして他世代間交流を生むような高齢者の後押しをしながら世代間交流を図る事業は素晴らしいと感じた。また、中山間地域の市民のために、「みなとチャンネル」というテレビを利用したサービスを展開している事には驚きであった。

会津大学が創設し学生が集まり、2009年ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト世界大会以降の活躍があり、TISインテックグループのTIS株式会社（本社：東

京都新宿区)がスマートシティの取組みで先端を走る会津若松市に注目し拠点を開設することを発表した。AiCTコンソーシアム2021年6月に設立された。この一連の流れの中で会津若松市にとってのスマートシティの推進が今後も、もの凄いスピードで進んで行くのだろうと感じた。会津大学には優秀な人材が集まり、その人材と市の方針の基、企業が集まり、そして地元企業との連携のにより市民生活が良くなる。素晴らしい事業であると感じました。

自由民主党浜松 A 班視察

久米丈二

視察日程 令和6年3月25日（月）～26日（火）

視察先 東京都豊洲市場、福島県会津若松市

視察日 3月25日（月）

視察先 東京都中央卸市場豊洲市場

視察項目

- ・中央卸市場豊洲市場の役割
- ・観光市場としての内容

説明

豊洲市場は東京都江東区豊洲六丁目にある公設の御売市場で、東京都内に11カ所ある東京中央卸売市場の一つで築地市場の代替施設として建設され、競りの見学、イベント、物販・飲食店舗については小売・飲食店関係者以外の一般消費者や観光客も利用できる市場として、平成30年10月11日に会場した。

その背景は、築地市場の衛生面・老朽化などの問題により建て替えが必要となり、銀座などの立地の良さと土地の広さなどを鑑み、2014年を目安に江東区豊洲への移転を検討していた。

東京都側と築地市場業界との協議機関として、新市場建設協議会が設置され2004年7月には豊洲新市場基本計画が策定された。

移転先予定地は東京ガスの施設が立地していた土地で、土壌汚染等が発覚し、有害物質が国の環境基準を超えており、こうした安全・衛生面や移転に伴う経費等の負担への不満、築地に対する愛着を抱く一部仲卸などにより、移転反対運動が行われたが安全面での対応として、2012年度より豊洲新市場土壌汚染対策工事およびそれに関する技術者会議を行なった。

土壤汚染対策のために開場時期は何度も延期され、新たな土壤汚染問題の発覚などを理由に2016年8月31日に小池百合子都知事が開場を延期することを表明し、複数回の調整を経て開場日は2018年10月11日となった。

搬入搬出はトラック輸送による搬出入がメインに考えているが、築地市場時代と同じく海上輸送にも対応しており、市場北側の晴海運河南岸に全長150m級の棧橋が整備され、搬入が可能となっている。

豊洲市場の特徴として、50年先まで見据えた首都圏の基幹市場として、築地市場が果たしてきた豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定という機能に加え、消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現など、産地や顧客・消費者の様々なニーズにも対応し、環境に配慮した先進的な市場とすることともに、築地市場の築いてきた歴史と伝統を継承・発展させていくことで、豊洲市場の魅力＝ブランド力を高めていくことを目指している。

所感

豊洲市場は、4つの重要ポイントとして食の安全・安心を確保するために、閉鎖型施設の特徴を活かして、商品特性にあったエリアごとの適温管理が可能となるほか、外気や虫、ホコリの流入を制御することができ、また、衛生管理にも十分配慮している。

省エネに取り組み環境に配慮とし、都内最大級の太陽光発電など自然エネルギーを活用するとともに外気冷房システムやLED照明などの省エネ機器の導入や、緑化も行っている。効率的な物流の実現と新たなニーズへの対応とし、御売場や仲卸売場付近に駐車スペース、荷捌きスペースを配置することにより、円滑な物流を確保し、また、専門小売店、食品スーパー等から求められる加工・小分け・包装等ができる加工パッケージ施設を整備している。地域と連携し活気とにぎわいを創出とし、千客万来施設事業をはじめ、豊洲地区の外周を囲む豊洲ぐるり公園と一体的に屋上緑化広場へお解放するなど、地域のにぎわい創出に取り組んでいる。

規模は大いに違うが、本市の計画している中央卸市場改築への視察目的であるこの豊洲市場は、市場内見学者コース（スペース）や、そこで取引されている生鮮食品を使った飲食店や物販店など大いに参考になる施設で、本市の市場も観光・浜松パワーフードを使っての飲食店整備など取り入れる点は大いに参考になった。

視察日 3月26日(火)

視察先 会津若松市

視察項目 会津若松市スマートシティの取り組みについて

説明

スマートシティ会津若松の取り組みは、東日本大震災からの復興を考える中で、会津若松市にコンピュータサイエンス専門の会津大学があるという強みをいかしていこうという思いから始まり、また、人口減少、特に若者の流出という課題に対して、地方であっても都市部と代わらない利便性と快適性を目指しつつ、新しい仕事や雇用を生み出し、魅力的な町にしていくことを実現するための手段として、デジタル技術を活用した取り組みを進めてきた。

平成25年2月、会津若松市では、市の政策の方針を示す施政方針と本市の活力再生の施策をあげた地域活力の再生に向けた取り組み～ステージ2～においてスマートシティ会津若松の推進を揚げ、以来、関連する取組を進めてきた。

また、平成29年度からの10年間で計画とする会津若松市第7次総合計画では、計画全体を貫く3つのコンセプトのうちの一つ、つなぎ続くまちへ、の中でスマートシティ会津若松を市政運営全体の向上のために有効な手段として位置づけ、ICTや環境技術などを、健康や福祉、教育、防災、さらにはエネルギー、交通、環境といった生活を取り巻く様々な分野で活用し、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを進めていくものであり、これらの取り組みのうち、特に地方創生に関するものについては第2期会津若松市まち、ひと、しごと創生総合戦略としてとりまとめており、ICTを活用したまちづくりを積極的に推進することにより、雇用の創出や人口の維持、ひいては地域経済の活性化を図っていき、令和4年度からはスマートシティ会津若松の発展・深化に向けて、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、データ連係基盤を通じた様々な分野のデジタルサービスの提供を産学官連携で進めている。

所感

会津若松市では、三方良しの実現に目指したスマートシティの取り組みをしている。

三方良しとは、商売をする上で、売り手と買い手が満足するのはもちろん、地域社会に貢

献してこそ良い商売といえる、という江戸時代中期の近江商人の考え方で、現在提供されているデジタルサービスの多くは、欲しい情報の検索や支払いも簡単にできて便利な一方買い物などの購入履歴や手数料は、そのサービスを提供する大手企業に集まり、地域の外に出てしまっている。

スマートシティ会津若松の取り組みでは、単なるデジタル化ではなく、地域にデータもお金も残すことが出来る、三方良しの新しい地方から実現していくことを目指している。

今後、人口が減少していく社会では、デジタルを活用した効率化と利便性の向上が必要になってきます。一方で、市民の皆様にデジタルサービスを気軽に使ってもらうようになるためには、サービスのさらなる改善や体験の機会がまだまだ必要で、そこで、市では令和4年度に地区別の体験説明会や意見交換会などを開催してきた。

今後も、このような機会を通して、新しいデジタルサービスの体験から浸透、そして利用者の拡大への好循環につなげていきたいとしている。

特に、TIS、会津若松のICTを活用オフィスアイクトに大手企業に貸し出し、拠点を開設しキャッシュレス、ロボテイクス、ヘルスケア分野の新たなソリューション創出と社会課題の解決を目指している。

本市浜松にも、デジタル・スマートシティ推進部でこれにあたっているが、会津若松市の取り組みは全体に同時進行している事業で、本市浜松は各事業単独で取り組んでいるように見受けられる。

本市浜松としても、鉄道、東名高速道路、新東名高速道路、公共交通網、地域性など好条件に恵まれているので、大いに参考にしてデジタル・スマートシティ事業を一体推進していくべきと感じた。

視察報告書

令和 6 年 3 月 31 日

自由民主党浜松

高林 修

視察日程 令和 6 年 3 月 25 日（月）

視察先 東京豊洲市場

視察項目 中央卸豊洲市場の役割及び観光市場としての内容

対応者 望月氏 静岡市出身 東京都職員

視察内容 ◎ 豊洲市場概要

- ① 2018 年 10 月 11 日開場、当初の 2014 年開場予定が大幅に遅れたのは、耐震性、敷地の土壌汚染、市場の建物地下が空間になっていて地下水のシアン、ヒ素などの含有量が環境基準値を超えているなどの問題がクリアされるのに時間を要したためである。
- ② 総敷地面積 40.7ha、青果棟（地上 3 階建）卸売場棟（地上 5 階建）水産卸売市場（地上 5 階建）及び管理施設棟（地上 6 階建）に区画されている。卸売業者の面積使用料は東京都が運営する他の 10 市場と同等となっている。アクセスとしてはゆりかもめ市場前駅で下車、他に路線バス、都営地下鉄も利用できる。
- ③ 水産物の卸売業者 7 社、仲卸業者 468 業者、売買参加者 292 業者
- ④ 青果物の卸売業者 3 社、仲卸業者 95 業者、売買参加者 512 業者
- ⑤ また観光客を対象とした 2024 年 2 月開業の商業・観光施設「千客万来」や水産卸売場棟などに業者のための飲食店、物販店があるが、観光客も利用でき、視察日は大賑わいであった。

◎ 質疑応答

- ① 開設からの見学者、（海外観光客含む）の数の推移については 2019 年当初は年間 40 万人であったが、コロナの影響で激減し、ようやく 2023 年は 12 万人（海外 1 万人）まで回復した。改めての目標値は 260 万人としている。
- ② 市場輸送関連業者、千客万来関連業者と来場者に対してのアクセス、ゾーニング・動線への配慮については、多少のバッティングはあるが、案内表示と警備員で対応している。

◎ 所感

豊洲市場が掲げる 4 つのポイントは①食の安全・安心の確保②環境に配慮した省エネ取組③効率的な物流の実現と新たなニーズへの対応④地域と連携し活気とにぎわいを創出である。浜松市が予定している新卸売市場建設において①から③を参考にすべきはもとよりであるが、④の実現は困難であるが、地域との連携や新卸売市場の観光資源として可能性を少しでも引き出すことも重要である。

視察報告書

令和 6 年 3 月 31 日

自由民主党浜松

高林 修

視察日程 令和 6 年 3 月 26 日（火）

視察先 会津若松市

視察項目 会津若松市スマートシティの取り組み

対応者 企画調整課スマートシティ推進室 本島 靖 室長

内容 会津若松市も平成 7 年の 13 万 7 千人の人口が令和 6 年 2 月には 11 万 2 千人まで減少した。少子化の自然減もあるが、30 歳代までの転出超過が多く、2060 年には 7 万人を切ることが懸念されている。そこで平成 25 年から、市民、地域、企業の三方良しの地域社会の実現を目指し、生活に関わるあらゆる分野で、ICT や環境技術などを活用したスマートシティの取組を推進することとした。

◎ 魅力的なしごとづくり（企業）

2019 年 4 月に開所したスマートシティ AiCT に、首都圏大企業と地元の ICT 関連企業が入居し情報共有および交流を図った。発展的に 2021 年 6 月に AiCT コンソーシアムが設立され、市、コンソーシアム、公立会津大学（1993 年創立、学位論文はすべて英語）3 者連系の魅力的仕事の創生を図る。

◎ 快適で安全・安心な暮らしの実現（市民）

簡単・迅速な行政手続き（書かない・待たない・行かない）。健康情報の自己把握・気軽に相談できる環境（オンライン診療など）づくり

◎ データ等によるまちの見える化（地域）

除雪車の位置情報や母子健康情報を還元、まちの状態を可視化することで効果的・効率的に行政を運営する。

ここで注意すべきは個人情報の取り扱いで事前に本人の同意を得る「オプトイン型」のデータ活用するとしている。

所感

本島室長は説明の最後に「子どもたちが大人になったときに、ここで暮らし続けたいと素直に思える、私たちが高齢者になったときに、ここで暮らし続けると心から思える、そんな街でありたい」「そして誰もがこの街で暮らし続けられるように市民の皆さんと共にスマートシティ会津若松の取り組みを着実に進めてまいります。」と結ばれました。日本全国の自治体が悩んでいる少子化、人口減少に対しては、出生率の維持と共に、転出の防止、転入推進の施策が進められている。

会津若松市は IT（情報技術）を駆使して、行政がかかわるあらゆる分野、すなわち産業、農業、食、福祉、教育、行政申請手続き、医療、観光、流通、文化、防災、土木、環境の利便性を高め、住みよいまちづくりを目指していることが視察を通して実感された。

視察報告書

自由民主党浜松

須藤 京子

日 程 2024 年 3 月 25 日（月）～3 月 26 日（火）

視察先 東京豊洲市場・会津若松市

視察者 高林修 平野岳子 井田博康 久米丈二 露木里江子 小野田康弘
神間郁子 辻村公子 須藤京子（敬称略）

目 的 1 日目 東京豊洲市場

再整備基本計画が策定されている、浜松市中央卸売市場について見識を深め、今後の参考とするための現場視察。

2 日目 会津若松市

本市でも取り組みの始まっているスマートシティについて、会津若松市の事例を参考とするため。

視察の概要及び所感

① 東京豊洲市場

新橋駅からゆりかもめに乗って訪れた豊洲市場は、すでに車内から外国人観光客と思しき人たちも多く、悪天候にも関わらず多くの観光客でにぎわっていた。

まず、東京都職員であり豊洲市場の担当者望月氏により、概要についての説明を受けたのち、早朝 5 時 30 分からのマグロの解体とセリが見学できるという見学コースも含めて場内の見学を行った（時間的にマグロのセリの見学はできず）。豊洲市場は、築地市場からの移転に関して土壤汚染の問題などいくつかの課題を解決しながら平成 30 年 10 月に開場した。鉄道輸送前提で開設されていた築地市場は施設の老朽化、また輸送手段が鉄道からトラック輸送が主流になることに伴う敷地や道路の狭隘化も課題となっていた。

新しくなった豊洲市場は、築地市場の 1.8 倍の広さではあるが市場としての広さはほとんど変わらず、駐車場や外周道路に多くの面積を割いているという。50 年先まで見据えた首都圏の期間市場として、築地市場が果たしてきた豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定、そして近年消費者の意識が高まっている食の安全や安心の確保、効率的な物流の実現

など、産地や顧客も含めたニーズに対応しているといえる。さらには、環境に配慮した先進的な市場を目指している。

環境への配慮では、都内最大級の太陽光発電パネルを設置して、自然エネルギーを活用するとともに外気冷房システムやLED照明などの省エネ機器の導入、屋上緑化の取り組みも行っている。ただ、太陽光発電については使用電力量も多いため、自給率は2%程度にとどまっているという。

時間の制約もあり、見学できたのは水産関係棟にとどまり、青果棟の見学はかなわなかったが、ほかの都内10市場と相互に補完しながら流通ネットワークを形成していることを興味深く聞いた。

市場見学終了後には、2月1日に開場した「千客万来」も見学したが、春休みということもあり、また外国人観光客の人気もあるということで、かなりの盛況ぶりであった。

本市においては、今後の再整備に向けて中央卸売市場再整備基本計画が策定されているが、細かいことを言えば、見学コースの設定や喫煙所の扱いについては未検討の状態であるようだ。本市中央卸売市場も市民にも開かれた市場となるように今後の進捗を見守りたい。

② 会津若松市スマートシティの取り組みについて

会津若松市は人口12万人ほどの市であり、昔ながらの落ち着いたたたずまいの地方都市でありながら、スマートシティの取り組みとしては、小回りの利く規模での先進事例として注目を集めていると聞く。全国的に各地で取り組みが進められているスマートシティの取り組みは本市においても進められているが、人口減少や少子高齢化また若者の都会への流出等といった課題は共通でありながら、取り組みの違いなどについての研修を行った。

まず訪れた市役所仮庁舎で、スマートシティの取り組みの内容については、スマートシティ推進室本島室長から説明を聞いた。

この取り組みは、東日本大震災からの復興を考える中でコンピューターサイエンス専門の会津大学と連携をし、地方にあっても新しい仕事や雇用を生み出す魅力的なまちづくりにデジタル技術を活用するために始められた。ここでは、デジタルの力で安心・快適な生活を手に入れる市民と地域のデータを活用した新しい仕事・魅力的なまちづくりを行う地域、そして新たなデジタルサービスの提供を行う企業の「三方良し」を狙った取り組みとなる。具体的には、ヘルスケア、モビリティ、食・農、決済、エネル

ギー、観光、行政、廃棄物、地域活性化、防災、教育、ものづくりの12分野で「スマートシティ会津若松」の実現を目指す。

会津若松市がこのようなスマートシティを目指す理由の一つには、便利さだけではなく、一般的なデジタルサービスでは、手数料などが地域外に出て行ってしまうので、デジタル地域通貨をはじめ地域にお金や情報が残りそれを利用して新しい仕事が生まれるなど地域全体が元気になる仕組みを目指しているという。

令和4年度からは先の12分野のうち、食・農、観光、決済、ヘルスケア、防災、行政の分野での取り組みが始まっている。中でも食・農分野の生産者と飲食店や宿泊施設とをつなぐ需給マッチングアプリやデジタル地域通貨「会津コイン」に興味を持った。デジタル地域通貨については、一般的な電子決済とは違い、消費者にポイントなどの付与はできないが、導入する店舗側にとっては、手数料が全国規模のものと比べて安いという利点があるため、それを消費者に還元することで利用者増を狙っているという説明であった。

こうした取り組みは非常に斬新に感じられ、人口も都市の規模も小回りが利き市民感覚を間近に感じられる当地ならではの取り組みであると感じた。

本市の場合は、人口も多く面積も広大であるため、事業としてのデジタル化のメリットを考えがちではないかということも併せて感じたところである。確かに本市のデジタルスマートシティの取り組みも、他都市からの視察を多く受け入れるほど、注目されるものではあるが市民の立場に立った利便性について考えてみることも必要ではないかと思わされた。

座学での説明の後は、AiCT（アイクト）と呼ばれる施設を見学させていただいた。AiCTは、首都圏などのICT関連企業が機能移転できる受け皿として整備されたオフィス環境であり、すでに多くの企業が入居している。首都圏からの新たな人の流れは新たに若年層の地元定着に繋がり、地域活力の維持発展を目指しているという。この施設内には、会津コインを利用できる無人店舗もあり、施設内で勤務する人たちに利用されている。

今回の視察では、本市の中央卸売市場の将来像について思いを巡らすこともでき、またデジタルスマートシティを目指す本市との視点の違いなどにも気づくことができた有意義な視察であった。

以上

自由民主党浜松 A 班視察報告書

平野 岳子

- ▶ 視察日 : 2024 年 3 月 25 日 (月) ~ 26 日 (火)
- ▶ 視察先 : 東京都豊洲市場・会津若松市

① 3 月 25 日 (月)

- 視 察 先 : 東京都豊洲市場
- 視察項目 : ・ 中央卸売市場の役割
・ 観光市場としての内容

【説 明】

平成 30 年 10 月 11 日に開場した豊洲市場は、50 年先まで見据えた首都圏の基幹市場として、築地市場が築いてきた歴史と伝統を継承・発展させていくことで魅力＝ブランド力をたかめていくことを目指している。



魚河岸の名で親しまれた東京都中央卸売市場築地市場だが、80 年以上の長きにわたり巨大都市東京の食生活をささえ続け、平成 30 年 10 月 6 日に閉場した。その築地市場のこれまでの歩みを簡単にまとめると、昭和 10 年 2 月、築地に広さ約 23 万平方メートルの東京都中央卸売市場が開設された。市場へ集まる生鮮食料品は旧汐留駅から引き込線を通して「貨物列車」で、また隅田川岸壁の栈橋から「船」で運ばれてきた。市場は迅速、公正な取引を展開し、取引の結果を公表して価格を安定させ、市民生活を支える大きな力となった。

その後、昭和 10 年より利用されてきた築地市場内の国鉄東京市場駅は、「トラック」の普及や「高速道路網の整備」などのため取扱量が減少し、昭和 62 年 1 月 31 日に廃止された。

東京都中央卸売市場は首都圏の食生活をまかなう生鮮食料品などの流通の一大拠点に発展。中でも築地市場は日本最大の市場になり、平成 29 年実績で、一日平均 2,455 トンの魚や野菜などが入荷し、およそ 20 億円が取引されていた。一方で、建物の老朽化などから現在地再整備・移転の検討がスタート。長い年月をかけ豊洲への移転が決定。移転延期を経て平成 30 年 10 月 11 日に豊洲市場が開場した。

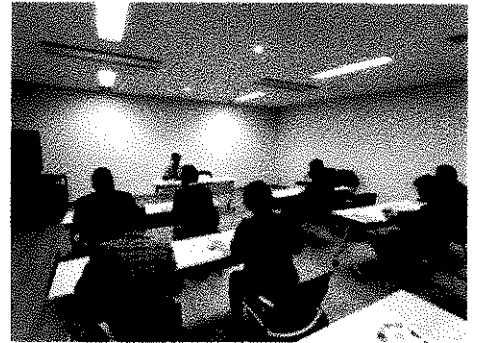
◆豊洲市場の特徴は4つのポイントがある。

- ① 食の安全・安心を確保
- ② 省エネに取組み環境に配慮
- ③ 効率的な物流の実現と新たなニーズへの対応
- ④ 地域と連携し活気とにぎわい創出

◆東京都の組織：正規職員58名、非常勤80名程

◆関係業者

- ①水産物：卸業者7社（せり人数530人）、仲卸業者468業者、
売買参加者292業者
- ② 青果物：卸業者3社（せり人数124人）、仲卸業者95業者、
売買参加者512業者
- ③ 関連事業者：流通補完業務18業者、物販・飲食業務103業者、
加工・サービス業務20業者



【所 感】

豊洲市場は、見学に訪れる人で溢れ、特に外国人も多く観光名所となっていた。千客万来施設事業や屋上緑地広場など、にぎわい創出の効果も大きいと感じた。

「閉鎖型施設」の特徴を活かし、商品特性にあったエリアごとの適温管理が可能となるほか、外気や虫、ほこりの流入も抑制することが出来るようになり、3～5日鮮度が保てることに感心。温度管理ができたことで、働く人々の身体が楽になったことは重要な視点である。



鮮度管理された清潔な空間で、消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現など、産地や顧客・消費者の様々なニーズにも対応していることが分かった。さらに、環境に配慮した先進的な市場としてさらに魅力を高めることを目指していることから一生期待が高まる。

本市の中央卸売市場再整備においても、食品流通の中で卸売市場が果たしてきた集荷・分荷・価格形成等の調整機能、農林漁業者の所得向上や消費者ニーズに的確に応えていくために付加価値の向上に努められることを期待する。

一般市民に開かれた施設整備を通し、食に対する関心を高め、安心安全の発信をされることを願う。

④ 3月26日(火)

視 察 先 : 会津若松市

調査項目 : 会津若松市スマートシティの取組み

【説 明】

会津若松市は、東日本大震災を契機に、情報通信技術や環境技術などを活用し、持続可能な災害に強い豊かなまちを創る「スマートシティ会津若松^{※1}」を掲げ、安心して快適に生活できるまちづくりに取り組んでいる。

さらに、国の成長戦略に基づく「地域活性化モデルケース」事業の採択を受け、ICTの活用や地域イノベーションの展開による地域産業の成長促進、これに伴う人材育成や実証フィールドの整備など、精力的に活動している。

「AiCT」は、その施策の一環として首都圏などのICT関連企業に働きやすい魅力的なオフィス環境を提供することを目的に整備された施設である。



TISは、「ICT産業の集積地である会津若松市」で、最先端の国家プロジェクトへの参加や、「会津大学」などとの実証実験を通して、新たな価値創造に向けた活動に積極的に取り組んでいる。

※1:「スマートシティ会津若松」とは、ICT（情報通信技術）や環境技術などを、健康や福祉、教育、交通、環境といった私たちの生活を取り巻く様々な分野で活用し、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことのできるまちづくりを進めていくものであり、これらの多様な取組の総称を指す。



「スマートシティ AiCT (アイクト)」の「A」にはAIZU、AI、Advance (前進) の意味合いが込められており、入居企業と会津大学、地元企業との産学官連携の推進により、新たな価値の創造に努め、未来に向け、市を前進させてる取組みだ。地方モデルの実証、実装事業をはじめ、産学官や地域企業との連携による新ビジネスの展開、人的交流が盛んになることが期待される。

ICT オフィス環境整備事業は、地方創生を目的として策定した「会津若松市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けた事業であり、ICT 専門大学である「公立会津大学」の立地を活かし、首都圏などから ICT 関連企業の集積を促進することにより、新たな人の流れと雇用の場の創出、若年層の地元定着による地域活力の維持発展を目指すものである。

1993 年創立の会津大学は、日本初のコンピュータ専門大学として開設。教員は全世界を対象とし、開学当時から教員 82 人のうち 48 人が外国人教員で国際性が高い。

人口 11 万 4 千人、世帯数 4 万 9 千世帯のコンパクトな街に、先見の目で創設した大学が現在のデジタル対応するまちづくりに拍車をかけているようだ。

【所 感】

会津若松市が抱えている人口減少や少子高齢化などの課題は、全国の自治体が抱えている共通課題である。平成 27 年を人口ピークに、年 1,000 人以上のペースで人口減少し、特に若年層の人口減少率が大きい状況は浜松市も同じである。高校卒業後は 8 割が地域外へ出て行ってしまう中、その対策として平成 25 年から「スマートシティ会津若松」に取りくんでいる。



その内容は、魅力的なしごとづくりであり、快適で安全・安心な暮らしの実現、データを利用したまちの見える化である。この実現のために、市と AiCT (アイクト) コンソーシアム・会津大学の 3 者が相互に連携して基本協定が締結されたことは、大きな推進力であり、大学との連携は羨ましい環境であると感じた。

さらに、「三方良し」の地域社会の実現を目指し、市民、地域 (AiCT コンソーシアム・地域企業)、企業 (みずほ銀行・TIS) がそれぞれにメリットを感じながら地域活性化のために「会津コイン」を積極的に利用・運営しているしくみに感心した。

さらに、個人情報の取扱いについては、事前に本人の同意を得る「オプトイン型」としており、市民の疑問や不安に配慮していることは重要な視点である。

魅力的なまちづくりは若者の定住や移住を意識づけることができるであろう。「未来のまちづくり」にスマートシティとしての取組みを積極的に推進していることで、持続可能な社会に繋がることは間違いないと感ずることが出来た。

本市にも言える事であるが、さまざまなところにデジタルサービスが増えているが、市民にとっての利便性と周知が充分なのか、検証は絶えず必要であると感じる。議員としても、市民と行政の間に入って進めていくことが必須であることを再認識した視察であった。

以上

会派 A 班視察報告書

報告者 神間郁子

■視察日程 2024年3月25日～26日

■視察先 東京都中央卸売市場豊洲市場・会津若松市

■視察者 高林 修 須藤京子 平野岳子 井田博康 久米丈二

露木里江子 小野田康弘 神間郁子 辻村公子

■視察概要

東京都中央卸売市場 豊洲市場：中央卸売市場豊洲市場の役割・観光市場としての内容

2018年10月11日開場した豊洲市場は、首都圏の基幹市場として、それまで築地市場が果たしてきた豊富で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と価格の安定という機能に加え、消費者の意識が高まっている食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現など、産地や顧客・消費者の様々なニーズにも対応し、さらに、環境に配慮した先進的な市場とするとともに、築地市場の築いてきた歴史と伝統を継承・発展させていくことで、豊洲市場の魅力＝ブランド力を高めていくことを目指す。

○食の安全・安心の確保

閉鎖型施設としたことで、エリアごとの温度管理が可能となった。外気・虫ほこりの流入を防ぐとともに、働く人にとっても環境が改善された。魚の鮮度的に持ちがよくなったとの声あり。

○省エネに取り組み環境に配慮

都内最大級の太陽光発電設置（総電力の2％に充当されている）LED照明など省エネ機器の導入や屋根部分の緑化。

○効率的な物流の実現と新たなニーズへの対応

駐車スペースや荷捌きスペースの配置の工夫により、円滑な物流を実現した。専門小売店・食品スーパーから求められる、加工・小分け・包装等の加工パッケージ施設の整備。

○地域と連携し活気と賑わいの創出

隣接施設「千客万来」は2024年2月にオープン。50年の定期借地により民間企業である、万葉倶楽部による運営。都としては運営には関与していない。市場の見学コースにはQRコードによってせりの動画を見られるようにしたり、見学デッキは月に100人以上の申し込みがありにぎわっている。

<所 感>

当初、移転するか、再整備するかでいったんは再整備方針で進み、仮設施設をつくったが、入居に難色を示したことから、移転へ舵を切った。使用料については、新設豊洲になっても、使用料は変わらないとのこと。これは移転により土地の売却益が出たことにより、これから40年～50年は据え置きで行ける計算とのこと。東京ならでは、である。本市においては、こういった収入はないことから、新施設になることによる使用料の値上げについては、場内店との十分な協議が必要となる。配置の工夫により、家賃に直結する、省スペース化、コンパクト化をはかり品物の動線にも十分配慮された利用しやすい施設となっている。インバウドが復活し、外国人観光客が多く、また春休みの家族連れでにぎわっていた。「千客万来」を含め、観光客を呼び込むために、新交通ゆりかもめが直結している点大きい。本市の中央卸売市場を再整備においても、市民や観光客を呼び込む交通手段や、賑わいの創出に向けた余剰地の活用について十分な検討が必要となる。使うものにとっても効率的で、使いやすい市場となり、賑わいが創出できる再整備について、しっかり今後を見ていきたい。

会津若松市役所：スマートシティの取り組みについて

東日本大震災からの復興を考える中で、会津大学という強みを生かすという思いからスタートした、スマートシティ会津若松。人口減少・若者流出課題に対して、デジタル技術の活用による取り組みを推進してきた。目指すこれからのカタチとは、「三方よし」。売り手と買い手の満足はもちろん、地域社会に貢献してこそ良い商売である、という考え方で、単にデジタル化ではなく、地域にデータもお金も残す新しい仕組み、つまり、

市民にとって・・・デジタルの力で安心快適な便利な生活

地域にとって・・・地域のデータを活用した新しい仕事・魅力的なまちづくり

企業にとって・・・新たなデジタルサービスの提供

産官学連携によるスマートシティの推進では、公立大学法人会津大学、と（一社）AiCT（アイクト）が連携している。会津大学は、平成5年に開学したICT専門大学。パソコンやスマートフォンだけでなく医療・AI、宇宙まで研究対象は幅広く、国内外の評価が高く、優秀な人材を輩出している。一学年240名で6割は県外からの学生だが、就職時には8割は県外へ出て行ってしまう。働く場所の提供が課題となっている。AiCTコンソーシアムは、AiCTの入居企業や市内地元企業、団体などの約90社の会員企業や団体により令和3年に設立し、組織の枠を超えた協業を実践している。会津地域でのデジタル変革とスマートシティの取り組みモデルを目指す。

令和4年の取り組みは、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して、ヘルスケア（オンライン診療）・防災（デジタル防災）・行政（手続きナビサービス）・決済（会津コイン）・観光（観光支援サービス）・食と農（需給マッチングアプリ）6分野にて取り組みを推進してきた。

<所感>

人口11万人の会津若松市だが、デジタル推進が進んでいる印象であった。しかし、議会からも指摘があったように、市民がそれをどのくらい享受できているかについては、まだまだ課題があるように見えた。アプリなどの登録者数はそれほどの伸びはない。市民への周知や理解のために、いかに市民へのコミュニケーションをとっていくかはこれからの課題となっている、とのこと。また実際に人口減少や若者の流出に歯止めを、の点では、まだ結果は出てきていない。大学があっても、人材が流出してしまふことを考えると、浜松市においてはやはり、R6年度事業、働く場の提供である、ICT企業誘致施策に期待するところが大きい。

提供された資料、「あいづわかまつ市政だより別冊」がスマートシティを市民向けに紹介した資料として、とても分かりやすいものとなっている。本市も参考にするように提案したい。また担当者の熱のこもった説明を聞いたが、やはり要となるのは、分野に長けた職員である。本市のデジタル人材の配置についても見直していく必要がある。

自由民主党浜松 A 班視察報告書

令和 6 年 3 月 28 日

自由民主党浜松

小野田 康弘

◆視察日程 令和 6 年 3 月 25 日（月） ～ 令和 6 年 3 月 26 日（火）

◆視 察 先 3/25 東京都江東区 東京都中央卸売市場豊洲市場

3/26 福島県会津若松市 会津若松市役所

◆視察議員 高林 修 須藤 京子 平野 岳子 井田 博康 久米 丈二 小野田 康弘

神間 郁子 辻村 公子

◆視察報告

①令和 6 年 3 月 25 日（月）東京都江東区 東京都中央卸売市場豊洲市場

◎視察目的

- ・「中央卸売市場豊洲市場の役割について」
- ・「観光市場としての内容について」

◎豊洲市場の概要

豊洲市場は、東京都江東区に築地市場からの移転後、50 年先まで見据えた首都圏の基幹市場として平成 30 年に開場しました。この市場は、魚介類や新鮮な食材を卸売りする拠点として知られています。豊洲市場は、その先進的な設備や施設、そして厳格な衛生管理で知られています。また、一般の人々も市場内の一部エリアで飲食を楽しむことができ、観光客にも人気があります



す。年間を通じて多くの食材が取引されており、その規模は非常に大きなものです。特に、魚介類の取引量は膨大で、日本国内だけでなく世界各国からも取引が行われています。市場内では、競りやオークションなどの取引方法が用いられ、時には高額な値がつくこともあります。

◎視察内容

東京都には、11の中央卸売市場があり、基幹市場として豊洲市場と太田市場があります。豊洲市場の移転の理由として、築地市場が鉄道輸送を前提に設計されており、現代のトラック輸送には十分に対応できず建て替えが必要と言われていました。東京都は、銀座などに近いという立地の良さと土地の広さなどを鑑み、平成26年を目処に江東区豊洲への移転を検討していましたが、土壌汚染などの課題があり開場が遅れてしまいました。そうした中で、50年先を見据えた基幹市場となるため、様々な特徴を持つ市場となっています。

豊洲市場の特徴としては、他市場への転配送施設を設置するなど、首都圏のハブ機能確立し搬入から搬出までの一貫した物流システムを確立するなど、取引・物流両面の効率化を図っています。また、閉鎖型施設の特徴を活かして、高度な衛生管理、よりよい品質管理が可能となる施設整備や体制作りを行うなど、安全・安心の市場作りを行っています。衛生・温度管理がしやすい屋内で荷物を積み下ろす閉鎖型施設にしたことで果実など青果物に関してはクレームが減り、駐車場や荷捌き場を拡張したことでトラック滞留時間が短縮できたと事業者から評価されています。

また、環境に配慮した取り組みとして、都内最大級の太陽光発電などの自然エネルギーを活用するとともに、外気冷房システムやLED照明などの省エネ機器の導入や屋上緑化など、環境負荷の低減、省エネ・省資源に取り組んでいます。

さらに、市場内には見学コースが設定され、セリの見学、見学ギャラリーや物販店舗、市場関係者や一般の来訪客も利用できる飲食店舗も常設し、年間来訪者が260万人を見込んでおり、賑わいゾーンの設置や魅力ある都市景観に配慮するなど、街作りに貢献する市場となっています。



◎所 感

本市では、浜松中央卸売市場の老朽化により浜松市中央卸売市場再整備基本計画が策定されましたが、将来に向けての市場規模と機能、役割など様々な課題が山積しています。豊洲市場は、築地市場の老朽化と鉄道輸送を前提と設計されていたことにより、取扱量の増加による輸送効率低下と場内作業場が手狭となり、豊洲へ移転となりました。東京都の市場担当者から、移転の経緯や市場の役割また特徴などの説明があり、のちに市場内の水産棟を見学させていただきました。豊洲市場では、首都圏の生鮮食品の台所として水産物の取扱量が青果物より多く卸売業者 7 社（せり人数 530 人）、仲卸業者 468 業者、売買参加者 292 業者と多くの関係者から運営されています。水産棟の見学では、この市場の特徴である閉鎖型施設により、室内温度の定温化された市場内は、鮮度や品質管理など食の安全・安心に寄与していると感じました。また、トラック輸送を前提と考えられた搬入・搬出の導線も効率的で搬出作業の時間短縮にも繋がっています。

豊洲市場は、日本最大級の卸売市場であるため、本市の中央卸売市場とは比べることはできませんが、再整備の中で新鮮な生鮮食料品流通の円滑化と食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現などは参考になるものが多く感じ取れました。また、競りの見学や市場内の見学コースの設定など一般のお客様に市場を身近に感じる工夫も参考になりました。令和 6 年 2 月には、隣接地に豊洲場外江戸前市場として民間が運営する「千客万来」がオープンし、多くの観光客が来訪しており豊洲市場を中心に地域の賑わいの創出に貢献していると感じました。浜松市中央卸売市場についても、市場を中心とした賑わいの創出ができれば地域の活性化に貢献できるのではないかと思います。

②令和 6 年 3 月 26 日（火）福島県会津若松市 会津若松市役所

スマートシティ A i C T

◎視察目的

・「スマートシティ会津若松の取組みについて」

◎スマートシティ会津若松の概要

スマートシティ会津若松は、福島県会津若松市が実施している都市開発プロジェクトです。このプロジェクトは、先進技術を活用して、地域の持続可能な発展や住民の生活の質を向上させることを目指しています。

主な特徴や取り組みとしては、エネルギー効率の向上として再生可能エネルギーの活用や省エネルギー技術の導入により、市のエネルギー効率を高め、地域の環境負荷を低減します。また ICT の活用として、情報通信技術（ICT）を利用したスマートなインフラの整備や、データ分析による効率的な行政サービスの提供などが行われています。

交通・移動の改善として、公共交通機関の充実や交通インフラの改善、そして ITS（Intelligent Transportation Systems）の導入により、交通渋滞や駐車問題の緩和を図っています。

防災・安全対策として、地震や洪水などの災害に備えたシステムの構築や、防災情報のリアルタイムな提供などが行われます。

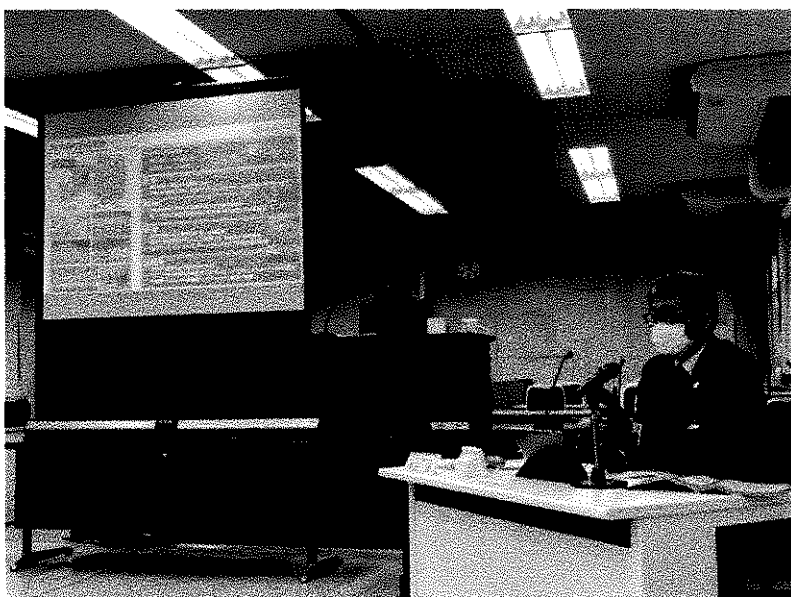
地域活性化として、地域産業の振興や観光資源の活用、文化・教育施設の整備など、地域経済の活性化を図る取り組みも含まれます。

これらの取り組みを通じて、会津若松市はより持続可能で魅力的な都市を目指しています。

◎視察内容

スマートシティ会津若松は、平成 25 年より、将来に向けて持続力と回復力のある力強い地域社会と、安心して快適に暮らすことができるまちづくりを進めるため、健康や福祉、防災、地域経済、エネルギーなど、生活に関わるあらゆる分野で、ICT や環境技術などを活用した取り組みを推進しています。年 1,000 人以上のペースで人口が減少し特に若者の流出という課題に対し、地方であっても都市部と変わらない利便性と快適性を目指しつつ、新しい仕事や雇用を生み出し、魅力的なまちにしてい、これを実現するために、「市内に魅力的なしごとづくり」、「快適で安全・安心な暮らしの実現」、「データ等によるまちの見える化」などのテーマを掲げ、手段としてデジタル技術を活用した取り組みを進めています。

取組みを一緒に推進するパートナーとして、日本初のコンピューター理工学の専門大学として会津大学が平成5年に開学し、パソコンやスマートフォンだけでなく、医療やAI、宇宙までと研究対象は幅広く、国内外での高い大学があり地域内外で優秀な人材を多数輩出しています。また、一般社団法人スーパーシティAiCTコンソーシアムは、AiCT入居企業や市内地元企業、団体など約90社の会員企業や団体により令和3年に設立し、組織の枠を超えた協業を実践しています。



◎所感

「スマートシティ会津若松の取組み」について、会津若松市スマートシティ推進室より取組みの経緯やこれまでの変遷や具体的な取組みなどの説明を頂きました。本市においてもデジタルファースト宣言を行い、AI・ICT等の先端技術やデータを活用などデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市づくりを推進していますが、会津若松の取組みと比べどのような違いがあるのか非常に興味がありました。

会津若松市の魅力的なところは、「産・学・官」の連携によるスマートシティの推進が強力であることが挙げられます。学では、地元の会津大学は、コンピューター理工学の専門大学という強みがあり、産では、行政主導の協議会から民間主導のコンソーシアムを令和3年に設立し、民間主導の地域マネジメント法人「一般社団法人AiCTコンソーシアム」がスマートシティの中核を担い、強力な基本協定を締結しています。また、ICTオフィス「スマートシティAiCT」を官民共同出資にて建設し、首都圏等のICT関連企業の機能移転に加え、地域のICT関連企業も入居しておりAiCTの入居企業間でのイノベーションが生み出されています。さらに、市民から「スマートシティサポーター」を登録してもらい、デジタルサービスの体験会や意見交換会などの情報を積極的に配信したりし、市民への情報提供を行うことでスマートシティ会津若松の取組みを広げています。このように地域での推進体制が非常に整っていると感じました。

実現を目指す取組みとして、AI 活用やデータ分析による医療サービスのヘルスケアをはじめ、モビリティ、食・農業、手数料ゼロのデジタル地域通貨の決済、エネルギー、観光、ものづくりなど、行政サービス、廃棄物、地域活性化、防災教育など 12 の分野で取り組んでいます。現状では、まだまだの分野もあるとのことですが、本市も見習いたいことが多くあると感じました。今回の視察では、スマートシティ会津若松の取組みが先進的なものであると感じました。

豊洲市場視察報告書

令和 6 年 3 月 25 日

自由民主党浜松 辻村 公子



所 感

浜松市においても中央卸市場の老朽化に伴い、再整備基本計画が掲げられている。豊洲市場は観光名所としても知られ、雨が降る中も多くの観光客でにぎわい、その中には外国人観光客の姿も多数みられた。

ゆりかもめの市場前駅から市場までの動線として高架型の歩道が設置されているが、全てに屋根がかかり、集客率アップにもつながると感じた。

豊洲市場は日本発の全館閉鎖型の施設であるが、閉鎖型にすることにより、鮮度が保たれるのはもちろんのこと、働く人が働きやすくなったというところは大きいのではないだろうか。食の安全・安心の確保、効率的な物流は、全国全ての市場にも求められることでもあり、最先端の豊洲市場の参考となるべきところを、浜松の市場にも取り込んでもらいたい。働く人の環境づくりを始め、多くの市民や観光客も立ち寄れる集客力のある観光名所、さらには小中高等学校の社会見学ができるような施設なると、市場に対して関心度も高まるのではないかと感じた。

『スマートシティ会津若松の取組とビジョン』視察報告書

令和6年3月26日(火)

自由民主党浜松 辻村 公子

所 感

会津若松市は人口112千人と、本市と同じく人口減少問題が課題となっている。平成25年から会津若松市は『スマートシティ会津若松』の推進体制を作り、将来にわたって持続力と回復力のある力強いまちづくりの取り組みについては、浜松市においても『デジタルスマートシティー』によるまちづくりの推進と同じ方向性だと感じた。まちづくりに必要なもの、それは官民が一体となって取組むことが、まちの発展や活性化につながると思う。

会津若松市ではスマートシティ AiCT が2019年に開所され、市の土地に民間が建設、経営をしている。市外からの機能移転事業者は、主に首都圏の大企業と、地元の事業者が利用しているというのはとても魅力的である。地元のベンチャー企業では地元の学生の就職受け入れ先としても力を入れており、素敵なオフィスで地元の若者が働ける環境づくりはとても重要である。浜松も若者の働きたい企業が増えれば少子化減少も緩やかになるのではないだろうか。

また、一人一人が見えるデータ化されていることで、アプリを使った避難訓練をされていることは災害時には有効でかつ迅速な取り組みが活かされると思われる。浜松市も各自治体の避難訓練では安否確認を行っている地域もあるようだが、第一避難場所で個人のデータが災害対策本部に届くとスムーズな救助活動により、多くの命を助けることができると感じた。

旅 費 支 払 証 明 書				
出張年月日	令和 6 年 3 月 27 日 (水) ～ 3 月 28 日 (木) 2日間			
出張先 (目的)	B 班 行政視察 藤沢市【(株) FujisawaSST SQUARE】 宇都宮市【宇都宮ライトレール株式会社】			
出張者氏名	柳川樹一郎	花井 和夫	鳥井 徳孝	(以上 6名)
	中野 和幸	藤田 典良	鈴木 裕之	
旅 費 額 内 訳				
項 目	金 額	備 考		
交通費	167,100 円	新幹線チケット代・手配手数料 6名分 (JR チケット代 @26,750 円 + 手数料 @1,100 円) × 6 名分		
"	7,300 円	タクシー代 実費 ① 藤沢駅 ～ FujisawaSST 2 台分 2,900 円 (3/27 4 台分) ② FujisawaSST ～ 藤沢駅 2 台分 4,400 円		
視察費	55,550 円	③ 3/27 Fujisawa SST 見学ツアー 55,000 円 + 振込手数料 550 円		
"	2,400 円	④ 3/28 宇都宮ライトレール宇都宮駅～平石駅 往復乗車 @400 円 × 6 名		
宿泊費	88,800 円	@14,800 円 × 1 泊 × 6 名分		
日 当	18,000 円	@1,500 円 × 2 日 × 6 名分		
合 計	339,150 円			

金 額		百	拾	万	千	百	拾	円
¥	3	3	9	1	5	0		

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和 6 年 4 月 1 日

代 表 者 会 長 鳥井 徳孝



〈詳細〉

- ・新幹線切符代 ・手配手数料 1 件 【3/25 支払 遠州鉄道(株)】
- ・視察費 2 件 【3/27 FujisawaSST マネジメント(株)／ 3/28 宇都宮ライトレール(株)】
- ・現地利用タクシー代 4 件 実費 領収書添付

B No. 616835

領 収 証

2024年3月25日

浜松市議会 自由民主党 浜松 様

金 額	百	千	円
	1	67	100

但し 3/27~28 交通費、手配手数料とに

上記の金額正に領収致しました。

内訳

	税込金額	消費税額
10%	167,100 円	(15,191 円)
8%		円 (円)
非課税		円
不課税		

現金
振込
カード
相殺
その他



遠州鉄道株式会社

〒430-8655 浜松市中区

登録番号 T5080401000702

扱
者
印



※社印、扱者印のないものまたは金額を訂正したものは無効です。

研修費用見積書 (手配旅行用)

③

発行日

令和6年3月22日

浜松市議会 自由民主党 浜松 様

旅行日	2024年3月27日(水)～3月28日(木)
行先	藤沢・宇都宮視察
参加人員	6名(大人 6名・子供 名)

※当書面は企画書面に明示した受注型企画旅行契約に基づく旅行代金を構成するそれぞれの項目についての販売価格の目安です。

当該内訳書は左記人数を基準にした場合の旅行代金の内訳です

単位(円)

交通費(固定費)	項目	区間/条件等	販売単価	数量	金額	適用
	JR代金		26,750	6	160,500	
	(小計①/ 6名)お一人様 26,750円		小計①		160,500	
交通費(変動費)	項目	区間/条件等	単価	数量	金額	
宿泊代	地名	条件	単価	数量	金額	
食事代	地名	食事内容	単価	数量	金額	
入場料/その他	項目	摘要	単価	数量	金額	
	手配手数料		1,100	6	6,600	
	小計②		小計②		6,600	
ご旅行代金総額 A			27,850	6	167,100	
お一人様旅行代金 (A/ご参加人数)			6名様ご参加の場合	27,850	※左記金額には任意の旅行保険代は含まれておりません	

国内旅行傷害保険 (任意)	お勧め保険プラン		単価	人数	金額	※保険代金を(A)の旅行代金総額に加算願います。
	団体ノーマル (補償内容はパンフレットを参照)					

備考

[illegible]

NOT
 444
 444
 444
 444

17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24

W
O
O
I
O
W
N
W

乗車券 (幹)
宇都宮 → 浜松
經由: 宇都宮・新幹線・東京・新幹線・浜松
3月28日から 3月30日まで有効
¥6,380
67610-533
2024.-3.11 ⑩浜松本社MR1発行
10008-26 (3-夕) C12

乗車券 (幹)
宇都宮 → 浜松
經由: 宇都宮・新幹線・東京・新幹線・浜松
3月28日から 3月30日まで有効
¥6,380
2024.-3.11 ⑩浜松本社MR1発行
10008-30 (3-夕) C12

新幹線特急券
東京 → 浜松
3月28日 (14:03発) (15:27着)
ひかり 515号 6号車10番D席 C50
¥4,130
67610-853
2024.-3.12 ⑩浜松本社MR1 (3-) 20107-01

新幹線特急券
東京 → 浜松
3月28日 (14:27発) (16:19着)
こだま 733号 13号車5番E席 C10
¥4,130
67610-523
2024.-3.11 ⑩浜松本社MR1 (3-) 10008-16

新幹線特急券
宇都宮 → 東京
3月28日 (12:58発) (13:48着)
やまびこ 138号 6号車11番D席 C26
¥3,240
67610-839
2024.-3.12 ⑩浜松本社MR1 (3-夕) 20093-01

新幹線特急券
宇都宮 → 東京
3月28日 (13:21発) (14:16着)
やまびこ 212号 8号車12番E席 C06
¥3,240
67610-517
2024.-3.11 ⑩浜松本社MR1 (3-夕) 10008-10

② $① 13,750 \times 4 \text{名分} = 55,000$ +

$① 13,750 \times 2 \text{名分} = 27,500$]

③ 千配手数料 $① 1,100 \times 6 \text{名分} = 6,600$

3/27 現銀 773-代

①-1

領収書
現・チ・ク・割引 No.1740
日付 '24年03月27日
車番 64027 000
メータ運賃 ¥1,500-
合計 ¥1,500-

上記の通り領収致しました

消費税率 10%
登録番号: T1021001024472
毎度ご乗車ありがとうございます

KanachuTAXI

神奈川タクシー株式会社

藤沢第一営業所

お車の御用命は ☎0570-077-030

お忘れ物・ご要望は ☎0466 87 3262

ご意見・ご要望は

神奈川県タクシー協会 相模支部

☎ 046 227 0080

①-2

領収書
現・チ・ク・割引 No.0012
日付 '24年03月27日
車番 4001 000
メータ運賃 ¥1400円
合計 ¥1400円

上記の通り領収致しました

消費税率 10%

毎度ご乗車ありがとうございます

(株) 湘和タクシー F I T

登録番号:

T6021001004610

藤沢市柄沢 4 6 9 - 6

0 4 6 6 - 2 6 - 6 6 5 7

ご意見・ご要望は

神奈川タクシー協会 相模支部

0 4 6 - 2 2 7 - 0 0 8 0

(Fujisawa ST)

藤沢駅へ視察先

2台

②-1

領収書
No. 5797
日付 2024年03月27日 12:45
車番 004010 800
メータ運賃 ¥1,700-
迎車料金 ¥500-

運賃料金計 ¥2,200-
合計 ¥2,200-

内消費税等 ¥200
消費税率 10%

上記の通り領収致しました

登録番号: T4021001005973

無線タクシー

小和田交通(株)

☎ 0467-51-1119 代

お忘れ物・ご要望は上記または下記へ

神奈川県 小和田交通(株)

〒243-0292 藤沢市大坪2-1-1

②-2

領収書
No. 5850
日付 2024年03月27日 12:56
車番 004010 800
メータ運賃 ¥1,700-
迎車料金 ¥500-

運賃料金計 ¥2,200-
合計 ¥2,200-

内消費税等 ¥200
消費税率 10%

上記の通り領収致しました

登録番号: T4021001005973

無線タクシー

小和田交通(株)

☎ 0467-51-1119 代

お忘れ物・ご要望は上記または下記へ

神奈川県 小和田交通(株)

〒243-0292 藤沢市大坪2-1-1

Fujisawa SST ~ 藤沢

ご利用明細



静岡銀行

ご利用ありがとうございます。
内容をご確認いただきお持ち帰りください。

年	月	日	振替先店番・科目・口座番号	
06	03	29		243
銀行番号	店番号	科目	口座番号	
0149				
お取扱店	お取引内容	お取引金額		
0361	お引出し	¥55,000		
お取扱枚数	*****			
	おつり	残高		

キャッシング	手数料	時刻	お取扱い できない場合	
	¥550	13420156		

お振込先明細書
ミツイスミモリシタク
オオサカキョウテン
普通 3146152
フジワラ イノシスタイムマネジメント
カフシキカインヤ 様
ハママツシキカインヤ コウミンシヨウトウハママツ
様 TEL053-457-2495

06.520.38

(裏面もご覧ください)

領 収 証 静岡県浜松市議会自由民主党 浜松様 No. 10148

金額

¥1200-

内 訳

現金

小 切 手

手 形

消費税額等(10%)

消費税額等(%)

但 大人6名×200乗車運賃代として

2024年3月28日 上記正に領収いたしました

宇都宮ライトレール株式会社

〒321-0903

栃木県宇都宮市下平出町3110番地

登録番号 T1060001027696

収入印紙

GR095223

領 収 証 静岡県浜松市議会自由民主党 浜松様 No. 20375

金額

¥1200

内 訳

現金

小 切 手

手 形

消費税額等(10%)

消費税額等(%)

但 大人6名×200乗車運賃代として

R6年3月28日 上記正に領収いたしました

宇都宮ライトレール株式会社

〒321-0903

栃木県宇都宮市下平出町3110番地

登録番号 T1060001027696

収入印紙

GR095223

4308652
静岡県浜松市中央区元城町103-2浜松市役所

浜松市議会 自由民主党浜松
自由民主党浜松
鈴木 裕之 様

ご請求書

発行日: 2024年3月27日
請求書番号: T240327-01

〒251-0043
神奈川県藤沢市辻堂元町6丁目21番1号
電話:0466-34-8542 FAX:0466-34-8543
Fujisawa SSTマネジメント株式会社
(登録番号 T6-0210-0105-0258)

浜松市議会 自由民主党浜松 御中

以下の通りご請求申し上げます。

ご請求額 ¥55,000 (消費税等込)

件名 Fujisawa SST見学ツアー代

検印	検印	担当印
		

No	項目	軽減税率 対象	数量	単価	金額
1	2024年3月27日 Fujisawa SST 見学ツアー代		1	40,000	40,000
2	自動配送ロボット オプションツアー		1	10,000	10,000
	以下余白				

※は軽減税率対象です。

お振込先: 三井住友信託銀行 大阪本店営業部
(普通)3146152
受取人: Fujisawa SSTマネジメント株式会社
フジサワエスエスマネジメント(カ)

振込期限: 2024年4月30日

小計	¥50,000
消費税	¥5,000
合計	¥55,000

10%対象	¥50,000	消費税	¥5,000
軽減8%対象	¥0	消費税	¥0

◎お手数ですが、お振込の際、振込名義の後に弊社からの請求書番号(本紙右上に記載)をご記入ください。

※恐れ入りますが、振込手数料は貴社ご負担にてお願い申し上げます。

※この用紙は偽造防止処理を施しております。本用紙で作成された請求書は正式書類であることを証し、請求印につきましては省略させていただきます。

自由民主党浜松 B 班視察日程表

視察日程 令和6年3月27日(水)～28日(木)

視察先 藤沢サステナブルスマートタウン・宇都宮 LRT

視察者 柳川樹一郎 花井和夫 鳥井徳孝 中野和幸 藤田典良 鈴木裕之

合計6人

3 月 27 日 (水)	【7:20 浜松駅新幹線改札前 集合】 (こだま700・指) 浜松駅7:30===8:51小田原駅 (東海道本線) 小田原駅9:00===9:40藤沢駅 (タクシー) 藤沢駅9:45===9:55湘南 T-SITE3 号館「FujisawaSST SQUARE」 <藤沢 SST 視察> 10:00～12:00 調査項目 ・藤沢サステナブルスマートタウンのタウンマネジメント、防災、 カーボンニュートラル、ウェルネス等の街づくりの実情について (タクシー) 「FujisawaSST SQUARE」12:00===藤沢駅12:15 (上野東京ライン・東海道線直通) 藤沢駅12:21===13:13上野駅 (昼食→15:05新幹線改札前集合) (やまびこ213・指) (徒歩1分) 上野駅16:18===17:04宇都宮駅→ ホテルへ 〈宿泊〉ホテルサンルート宇都宮 (栃木県宇都宮市駅前通り1-5-2 TEL 028-621-3355)	【藤沢市】 人口 443,748 人 面積 69,57 km² Fujisawa SST マネジメント 株式会社 〈会場〉湘南 T-SITE 3 号館 FujisawaSST SQUARE プレゼンテーションルーム 神奈川県藤沢市辻堂元町 6-21 TEL 0466-34-8542 〈昼食〉上野駅近辺 〈夕食〉18:15～ バリトン 栃木県宇都宮市宮町 2-22 TEL 028-666-7366
3 月 28 日 (木)	【10:00 ホテルロビー集合】 (徒歩1分) ホテル10:05===10:06トナリエ宇都宮3階 <宇都宮市 LRT 視察> 10:15～12:15 調査項目 ・LRTを導入するに至った背景や路線ルートなどの検討手法 ・運行を開始し、実際の市民の反応や運行の課題 ・交通政策における今後の展望など (徒歩5分) トナリエ宇都宮12:20===宇都宮駅12:25 (昼食 → 13:15新幹線改札前集合) 【※帰路①: 4名 柳川、花井、藤田、鈴木】 (やまびこ212・指) 宇都宮駅13:21===14:16東京駅 (こだま733・指) 東京駅14:27===16:19浜松駅 【※帰路②: 2名 鳥井、中野】 (やまびこ138・指) 宇都宮駅12:58===13:48東京駅 (ひかり515・指) 東京駅14:03===15:27浜松駅	【宇都宮市】 人口 512,957 人 面積 416,85 km² 宇都宮ライトレール株式会 社 〈会場〉トナリエ宇都宮3階 栃木県宇都宮市駅前通り 1-4-6 TEL 028-341-1647 〈昼食〉宇都宮駅周辺

令和6年3月6日

会派名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者 会長 鳥井 徳孝 様

会派名 浜松市議会自由民主党浜松
氏 名 視察B班幹事 鈴木 裕之

出張届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

1 出張者

柳川樹一郎 議員 花井 和夫 議員 鳥井 徳孝 議員
中野 和幸 議員 藤田 典良 議員 鈴木 裕之 議員

(計6名)

2 期間及び出張先

令和 6 年 3 月 2 7 日 (水) ～ 3 月 2 8 日 (木) 2日間

藤沢市【サステナブルスマートタウン】 ・ 宇都宮市【LRT】

3 目的

藤 沢 市 : 藤沢サステナブルスマートシティのタウンマネジメント、防災、
カーボンニュートラル、ウェルネス等の街づくりの実情について

宇都宮市 : ・LRTを導入するに至った背景や路線ルートなどの検討手法について
・運行を開始し、実際の市民の反応や運行の課題について
・交通政策における今後の展望について

視察依頼書送付願

令和 6年3月6日

浜松市議会議長 戸 田 誠 様

会 派 名 浜松市議会 自由民主党浜松
代表者氏名 会長 鳥井 徳孝

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

A0302

令和 6 年 4 月 1 日提出	
(あて先) 会派名 浜松市議会 自由民主党浜松 代表者 会長 鳥井 徳孝 様	
報 告 書	
出張年月日	令和 6 年 3 月 27 日 (水) ~ 3 月 28 日 (木) 2日間
出張先	神奈川県 藤沢市 栃木県宇 都宮市
出張の理由	会派行政視察 (B 班) 【藤 沢 市】藤沢 SST (サスティナブルスマートタウン) について 【宇都宮市】LRT 宇都宮ライトレールについて
出張者 氏 名 印	柳川樹一郎  中野 和幸  花井 和夫  藤田 典良  鳥井 徳孝  鈴木 裕之  (計 6 名)
(出張の顚末) 別紙 報告書の通り	
(備考)	

令和5年度 自由民主党浜松会派視察報告書

報告者 浜松市議会議員
鳥井 徳孝

1・実施日 令和6年3月27日～28日

2・視察先

- (1) 藤沢市 藤沢サステナブルスマートタウン
- (2) 宇都宮市 宇都宮ライトレール(株)

3・視察項目

- (1) 藤沢サステナブルスマートタウンのタウンマネジメント、防災、カーボンニュートラル、ウェルネス等の街づくりの実情について
- (2) ・LRT を導入するに至った背景や路線ルートなどの検討手法について
 - ・運行を開始し、市民の反応や運行の課題について
 - ・交通政策における今後の展望について

4・所見

- (1) 藤沢サステナブルスマートタウンは CO₂排出量の削減や、住まいと暮らしの脱炭素実現に向けた再生可能エネルギーの導入を促進し、未来のため地球環境に配慮した街づくり住宅づくりに取り組んでいた。このことは地球温暖化対策へのモデル都市にまると思われた。課題としては、一時期に人口増が見受けられるため、今後 10 年 20 年 30 年後を見据えた時、人口減少への対応が必要になると思われた。
- (2) 本市においても以前から LRT 導入の考えがある中、宇都宮市の LRT に乗車し、本市が LRT 導入するにあたっての是非を確認した。定時走行の利便性や地球温暖化対策に配慮した交通政策の一つと思われた。一方、LRT 運行にあ

たっては片側 3 車線の道路整備が必要と思われた。また、本市においては昼間の乗降客の確保が難しいとも思われた。そのことから本市においてはモノレールや BRT を交通政策に検討すべきと思われた。

自由民主党浜松B班視察報告書

中野和

視察日程 令和6年3月27日（水）～3月28日（木）

視察先 ・ 藤沢 S S T
・ 宇都宮市 L R T

視察内容 ・ 藤沢サステナブルスマートタウンのタウンマネジメント、防災、カーボンニュートラル、ウェルネス等の街づくりの実情について
・ L R Tを導入するに至った背景や路線ルートなどの検討法
・ 運行を開始し、実際の市民の反応や運行の課題
・ 交通政策における今後の展望

視察議員 柳川 樹一郎議員 花井 和夫議員 鳥井 徳孝議員
中野 和幸議員 藤田 典良議員 鈴木 裕之議員

視察日 令和6年3月27日（水）

視察地 F u j i s a w a S S T（神奈川県）

調査項目 ・ 藤沢サステナブルスマートタウンのタウンマネジメント、防災、カーボンニュートラル、ウェルネス等の街づくりの実情につ

いて

目的 松下電機工場跡地に、10 年前から先進的な取り組みを進める
パートナー企業と藤沢市の官民一体プロジェクトの都市づくり
を学ぶ。

説明 「F u j i s a w a S S T」が、誇りたいのは、町のスケール
ではありません。街づくりの発想とプロセスです。最初に、エネ
ルギー、セキュリティ、モビリティ、ウェルネスなどの様々な角
度から住人の快適性、地域特性や未来の暮らしを考えてスマー
ト・コミュニティライフを提案。次にそれらに最適な家や施設な
ど街全体をスマート空間として設計し、最後に新しい暮らしを
支えるスマートインフラを最適構築します。

全体目標として、

環境目標 C O₂ 70%削減 生活用水 30%削減

エネルギー目標 再生可能エネルギー利用率 30%以上

安心・安全目標（CCP） ライフライン確保3日間

を設定。

100年先も「生きるエネルギー」がうまれる街になるように、

住宅、商業施設、健康・福祉・教育施設、公園、街区などを計画

した。

- ・藤沢の光と風を街まるごと活かす街。
- ・もしもの時も、希望のあかりを灯す街。
- ・街のみんなの安心・安全を見えないゲートで守る街。
- ・車に乗らない人もアクティブになる街。乗る人もエコになる街。
- ・街にかかわる全ての人が、ふれあいながら健やかになる街。

を実現した。

所感

松下電器の工場跡を利用して、市と企業が一体となって都市づくりを行った良い例である。

戸建て住宅、施設、公共エリアに太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備を導入。町全体で二酸化炭素排出量の大幅な削減を目指している事や、節水商品の導入や、雨水を積極的に利用するなど、町全体で水使用量を最小化している等、これからの街づくりには必要であるし、そのように計画すべきである。

街の中を走る自動配送ロボット「湘南ハコボ」、次世代型モデルハウスでのペロブスカイト太陽電池など拝見できた。

これからうまれる世界のスマートタウンの良いお手本になると感じた。

分譲地等で作られた街は、最初は活気があるが、住まわれる人が歳を重ねていく上で廃れてしまう傾向があるが、このような街づくりをすればそのような事はないような感じがした。

たまたま、自分たちの視察が「記念すべき4万人！」であった。

視察日	令和6年3月28日（木）
視察地	宇都宮市LRT（栃木県）
調査項目	・LRTを導入するに至った背景や路線ルートなどの検討法 ・運行を開始し、実際の市民の反応や運行の課題 ・交通政策における今後の展望
目的	宇都宮市のLRTを調べて、浜松市にもLRTが必要なのか？導入できるのか？を調べるため。
説明	芳賀・高根沢工業団地、芳賀工業団地・清原工業団地に通う人たち等で鬼怒川の橋が交通渋滞の解消が目的。 当初は、LRT・モノレール・2連バス等が案に出たが、いろいろな条件よりLRTに決まった。 事業費は684億円（国補助326億円・市町村負担358億円） 芳賀・宇都宮LRT事業は「公設型上下分離方式」を採用した。

現在、予定よりも利用者が増えている。

L R Tを基軸とした階層性のある公共交通ネットワークの構築。

所感

宇都宮市は、L R T導入より交通渋滞が緩和され、そして、導入した車線は、6車線道路を利用されたとの事です。

どうしても2車線はL R Tを導入するには必要となると浜松市では、道路の事をよく考えていかないといけない。

宇都宮市では、浜松市では「浜松都市環境フォーラム」のHPが素晴らしいとの話でした。

これだけの知識があれば、すぐにL R Tの実現ができると！

HPには、すでに計画路線や運賃等も記載されています。

渋滞緩和対策としても、車社会の浜松市としての脱炭素対策を考えるとL R Tも考えていかないといけないと感じる。

自由民主党浜松 会派視察 (B班) 藤沢、宇都宮

■藤沢サステナブルスマートタウンの視察について所感

藤田典良

藤沢駅からタクシーで10分ほど進むと、建物の形や道が整然と並ぶ街が目に入った。明らかに何かを目的として建てられた町であると感じられ、未来の町を表現したものに思えた。松下電器（パナソニック）の工場跡地に建てられたのは、単なるスマートタウンではなく、新しいサービスや技術を取り入れた「エネルギー、セキュリティ、モビリティ、ウェルネス、コミュニティ、災害有事の対策まで備えたサステナブルスマートタウン」である。

最初に案内されたのは、大手書店の蔦屋が運営する建物で「Tサイト3号館」と呼ばれるものであった。おしゃれなカフェを思わせる会議室に通され「藤沢SST」の概要説明を受けた。

○エネルギー面では、自分たちで使うエネルギーは自分たちの家で作り、無駄なく使う「自産自消」のエネルギーマネジメントが実現しており、すべての戸建て住宅には太陽光発電システムと蓄電池が備わっていた。藤沢SSTに家を建てる際には明確な基準があり、メーカーは問わないものの太陽光パネルの設置や蓄電池などの細かい基準を満たしていない住宅は立てられないようになっていた。また、東日本大震災の経験を活かし、停電時も太陽光で作った電力とエネファームが発電する電気のどちら利用が可能であり、非常時もエネルギーを絶やさない工夫がされていた。本市においても南海・東南海・東海地震によって相当な被害が予想されている、災害有事に強いまちづくりを行う上において、またカーボンニュートラルの面においても太陽光からエネルギーを生み出し自産自消の都市づくりをしていく必要性を感じた。

○セキュリティ面では、ゲートや柵で街を閉ざすことなく「バーチャルゲートタウン」が実現されていた。壁がないことで心理的な障壁も取り払われ、住民同時のコミュニケーションが活発に行われ、お互いに適度に見守り合う「あたたかいセキュリティ」が生み出されていた。

○モビリティ面では、様々なモビリティをシェアしており、電気自動車や電動自転車などのシェアリングサービス、充電バッテリーを貸し出すバッテリーステーションも設置されていた。車を使う時間帯や目的地までの距離や環境などの使用シーンやニーズに応じて、車や自転車を選択でき車を所有していない人の行動範囲も広がるように感じられた。

○ウェルネス面では、子どもからお年寄りまですべての住民が健やかに自分らしく暮らしていけるよう特別養護老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、薬局、訪問介護サービス、クリニック、保育所、学習塾などが一体となったウェルネススクウェアが作られており、すべての住民がつながりを持ち、お互いに支え合う形が作られていた。現在も高齢者向けの賃貸マンションが建設中であり、ファミリー向けの戸建て住宅に加え、高齢者が单身でも生活できるような循環型の都市形成が継続されている。

○コミュニティ面では、誰もが簡単に利用できるワンストップのポータルサイトが備わっており、家庭のエネルギー使用量の確認をはじめ、地域サービスやポイント制度、モビリティサービスの予約、コミュニティ内の情報交換など様々なサービスのコンテンツが用意されている。55インチのテレビも各家庭に支給されており住んだその日から利用することができるということであった。

自分の住む町の近くにも、工場跡地を利用した「一条タウン西伊場（スマートタウン）」が誕生し

話題となった。マンションと戸建て住宅、保育施設のある文教エリア、スーパーやクリニック、カフェが併設されている。新しい都市の形として、様々な地域でこのような街が形成されていくことが、今後増えてくるように感じる。本市でも少子高齢化が進み、コンパクトシティ化がますます加速していくことが予想される。藤沢SSTの視察で得られたものを都市づくり、街づくりの計画に活かせると感じた。

■宇都宮ライトレールランジット（LRT）の視察についての所感

藤沢の視察を終え宇都宮駅に到着し、西口からペデストリアンデッキを抜けてホテルに向かう。かつての宇都宮駅は、線路によって東西が分断されており西側と比較すると、東側の開発が遅れていたという。ホテルに荷物を置いたところで、早速、宇都宮駅内に設けられた真新しい東口自由通路を通り、宇都宮駅東側に足を運ぶ。東側には、きれいに舗装された街並が広がり、地元名産の大谷石で装飾された新しいビルや建設中の建物も目に入る。LRT宇都宮停留場も混雑が見受けられ都会の喧騒を感じ、明らかに西側のそれとは様相が異なって見えた。

2004年に就任された佐藤市長の肝いりで、公共交通と都市整備を一体的に整備したことでその相乗効果が大いに発揮されているように思える。宇都宮駅からつながる自由通路からエスカレーターで降りれば、LRT、路線バス、企業のバス、タクシー、送迎車両に乗車でき、交通システムが強く連結していることが分かる。そもそものLRTの事業は鬼怒川通の慢性的な渋滞を解消すると同時に、清原工業団地や芳賀、高根沢工業団地等の産業拠点を結ぶ公共交通機関として整備されたが、新たな公共交通が開通したことにより沿線にはマンションの建設が相次ぎネットワーク型のコンパクトシティが形成されつつある。また、LRT平石停留場に隣接する敷地には体育施設の建設が決まっており、あたり一面たんぼであった土地が、ここ数年で一気に開発が進み都市が生まれ変わる瞬間を目の当たりにし、宇都宮を良くしようとする目には見えないが他市感を感じるエネルギーを肌で味わうことができた。

整備事業の概要として、交通拠点施設（ライトキューブ宇都宮）を中心に、交流広場、宇都宮テラス、高度専門病院、分譲マンション、自転車駐車場などの都市機能が集積されている。交流広場を中心に商業施設やホテル、オフィスが接続しており利便性と機能性が飛躍的に向上しており、西側よりも賑わいは東側へと移り活気に溢れていた。LRT事業の話が出た当初は反対派が半数近くを占めており、中心市街地として発展してきた西側の住民はもちろん、開発が進んでいなかった駅東側の地域住民からも路面を走る危険性を上げられ、反対の声が多かったと伺った。しかし、開通を契機に東側の発展を目の当たりにした人たちが、西側の開発はいつになるのか？と、宇都宮駅西側の都市再開発、LRTの開通を熱望する声も上がったと伺った。

本市も宇都宮と同時期に、自由民主党浜松会派の議員や有識者からLRT（新たな公共交通）の必要性が訴えられ、議会質問でも上げられたが、前市長がこれを否定し、事業が進むことはなかった。もちろん、宇都宮と本市が全く同じ条件ではないものの、明確なビジョンをもとに堅実に都市づくりに取り組んだ宇都宮と本市の差は歴然である。宇都宮では、二元代表制で選ばれた市長がLRTを主軸として都市整備の旗振りをし、反対する議員や市民を説得し、LRTの有無を市長選で問う形で行われた。僅差で選ばれた市長が事業を推進してきた宇都宮と、市民を代表する議員の声も届かず、市長が反対していた本市では出発点がそもそも異なっている。令和5年の統一地方選挙で市長が変わり、中野祐介氏が選ばれたことにより本市がさらに発展することを願ってやまない。

令和6年4月1日
自由民主党浜松

視察報告書



浜松市議会議員

鈴木裕之

日時：2024年3月27日（水）10：00～12：00

訪問先：FujisawaSST

目的：先進的なコミュニティ形成を図っている藤沢サステナブル・スマートタウンの街づくりの現状を調査し、本市における街づくりの展望を模索する。



【要旨】

①藤沢サステナブル・スマートタウン構想について

藤沢サステナブル・スマートタウン（以下、SST）が造成された地は、元々、松下電器産業株式会社が関東進出のため1961年に工場を立てたことから始まる。2008年に松下電器産業が撤退後、この跡地において地権者等の事業者から「地域から地球に広がる環境行動都市-藤沢」の先導的モデルプロジェクトとして藤沢SSTの実現を目指したまちづくりが始まった。2011年に南北300m、東西600m、敷地面積19ヘクタールの土地を活用した藤沢SSTまちづくり方針を策定。2012年に土地区画整理事業・工事に着手。2014年にグランドオープンし、現在で10年目となる。

②SSTが目指すもの

生きるエネルギーが生まれる街をコンセプトに、企業、行政、大学、住民の皆様が競争しながら地域社会課題解決に取り組み、持続的に進化し続けるまちづくりを目指している。

③SSTの概要

・現在、566世帯、約2000名が住んでいる。住宅を購入する層は大体30代～40代の世帯が多く、子どもがいるファミリー層が約75%。ただ、オープンして10年が経ち、年齢層は40代～50代になってきている。SST内の自治会長は40代。

・2024年秋にシニアレジデンス「パークウェルステイト湘南藤沢SST」がオープン予定。

60歳以降の方が対象で間取りは1LDK～2LDK。老人ホームも併設しているため、体調が悪くなった場合、介護のしやすい部屋に移動して継続して住むことができる。全て賃貸扱いで約500世帯を見込む。

・FujisawaSST協議会は、代表幹事のPanasonicをはじめ、Gakken、CCC、ヤマト運輸、三井不動産、などの幹事会員11社、アクセント、ALSOKなどの一般会員4社、藤沢市などのアドバイザー5団体による構成員で成っている。

・次世代型自治組織「藤沢 SST コミッティ」は、住人主体の街づくりの根幹を担っている。街の全体目標達成に向けて、各種イベントやお祭り、習い事教室、エコに関する勉強会などを企画し、住人や周辺住民と交流を深め、リアルなコミュニティも醸成している。

・Fujisawa SST SQUARE には、藤沢 SST マネジメント株式会社のオフィスである SQUARE Office があり、街の住民や周辺住民、行政、企業、大学などが連携をして持続可能なまちづくりを進めるための拠点として個人や組織が協力をして様々な取り組みを行っている。また、SQUARE Mobility として環境に配慮したカーシェアも行っている。SST は、交通利便性が特別良い立地でもないため、一世帯 1 台の車の所有を認めている。また、街のエネルギー情報を収集して再生可能エネルギーや生活用水の削減率、CO2 削減量などの環境目標に対する達成率が、日、月間、年間の目標達成率などで可視化できるようになっていてここで確認できるようになっている。その他、町の中に設置されている 47 台の見守りカメラをリアルタイムに確認することができ、例えば災害が起きた時にこの画面を使って各地の状況を確認し、復旧に向けた支援活動が迅速に対応できるようにしている。

・SST の住人になると、必ず 55 型のスマートテレビが支給され、住民と町とのコミュニケーションツールとして活用している SST ポータルサイトを活用することができる。サークル活動の情報やちょっとしたつぶやき、街からのお知らせ等もここで確認することができるため回覧板は回さない。しかし、藤沢市は広報誌を月に 2 回発行しているため、これまでは班長が折り込み作業をしてポストに入れていたが、今後は PDF をオンライン掲載して紙媒体が欲しい人は SST マネジメント等のオフィスに取りに来てもらうということに変わっていく予定。また、このポータルサイト上でモビリティサービスや集会所の予約が可能。その他、防犯防災情報や SST 内の 3 つの公園のリアルタイム映像を見ることができる。

・SST 内の自宅の売買は自由に可能。ただ、オーナーが不動産会社に依頼すると、その不動産会社から SST に情報共有され、購入する場合は必ず同じような流れで事前説明を行って、様々なことを承諾いただいてから入居の運びとなる。自宅の建替えも全てルールに基



づいて行ってもらおう。景観はもちろん環境性能も揃えることを求めているが、建替えの際の住宅メーカーは自由に選択が可能。

・SST 内で発電した電気を売電する事業を行っている。

・スクエアガーデンにある石柱は、非常時にはテントを張ることができる。また、屋根ソーラーパネル、柱にコンセントが付けてあるため、非常時には SST の防災設備と

して活用することを目的としている。また、災害用のトイレも2基設置しており、普段使用できるベンチは非常時にはパーベキューグリルに活用できるようになっている。

- ・街は湘南の光と風を取り込む設計となっていて、住宅と住宅の間に歩行者専用通路が設けられおり、家に風や光を通しやすくなっている。これは、エアコン等の暖房器具の使用を抑え、CO2の削減に繋がっている。

- ・集会所の横に設置されている3台の駐車場には、EVの電気を集会所で使うことができるようになる配線設備が設置されており、非常時の電力として活用できるようになっている。

- ・コワーキングスペースのシェアラウンジがある。定額プランがあり、1ヶ月約3万円のパスを買って毎日通われている方も多し。常時、席の8割は埋まっている。プラス料金でアルコールが飲めるプランもある。



④スマートハウス

- ・駐車スペースにある eneplat システムは、太陽光で発電した電気を電気自動車と蓄電池に蓄え、住宅内に放電できる自家消費モードを搭載。

- ・透明有機 EL ディスプレイは、ガラス真空貼り合わせ技術により、高い透明度を実現したディスプレイ。背景が透けて見えることで空間を遮断せず、リビングに溶け込むことができる。未発売の商品。

- ・ガンマ波サウンドケアシステムは、ガンマ波変調技術を搭載し、音刺激による脳の活性化及び認知機能改善が期待されている。

- ・ミロモというデジタルミラーは、ストレスレベルを可視化し、鏡に映るゲームを楽しみながらストレス解消を図ることができる。

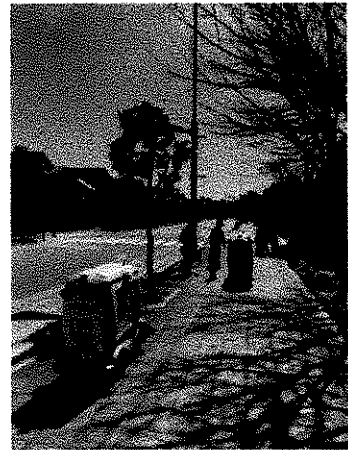
- ・冷暖房、空気清浄、全熱交換換気、これらの機能を1つにした全館空調熱交換気システム「ウィズエアー」は、室内外で発生した汚れた空気を浄化し、家全体を綺麗な空気で満たすことが可能。

- ・家庭用燃料電池「エネファーム」は都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素を使って自宅で発電し、発電時の熱でお湯を作るコージェネレーションシステム。
- ・浴室にはミストサウナ付き浴室暖房乾燥機を搭載。
- ・インテリアには、収穫期を終えたアブラヤシ廃材から地球温暖化の一因となるメタンガスが放出されている。この廃材を原料とした「PALM LOOP」ボードで家具材料として活用することで温室効果ガスの排出削減に貢献している。
- ・ペロブスカイト太陽電池で世界最高レベルの発電効率を実現。従来の太陽電池と異なり、透過性やデザインを付与し、ガラス建材一体型のまち・暮らしに調和する太陽電池で、昨今求められている創エネ、ZEH、ZEB 化を加速。ここで実証実験を実施していたペロブスカイト太陽電池はフィルムタイプで、制作費用や制作過程における CO2 の排出を 6 分の 1 程度に削減することができる見込み。5 年を目処に実用化を進めていく目途で各社が進めている。従来のソーラーパネルは、これまで屋根等の隔離したところに設置するものだったが、窓や壁に設置することが可能になることによって発電できる場所が増え、パネルを設置するのが難しかった建物や都内など、様々なところに取り付けられるようになり用途が広げられる。配線は手すり部分に入ってすっきりとしたデザインになっており、窓の景色を見たい時は薄めのフィルムを、そうでない場合は濃いフィルムにするなど、デザイン性や設置場所によって臨機応変に検討が可能になる。

【所感】

住民同士が自由に活用できるトータルモビリティサービスをはじめ、地域間のコミュニティ形成のための様々な仕掛けがあるところに、未来の地域コミュニティの一端を垣間見た気がした。人に優しく地球にも優しい街として、車を買うのではなくシェアする環境に配慮した街づくりの形や、大学、自治体、住人、企業などが共創し、「街をつくる」から「街を育てる」へ共通の価値観をもとに新しいサービスを生み出していく姿は素晴らしいと感じた。また、住民がポータルサイトからいつでも自由に意見を言ったり、お花見等のコミュニティ形成を提案でき、常に新しい発見がある街を模索する様はデジタル都市のモデルになるだろう。

防災に対しての危機感も顕著だ。東日本大震災の教訓をまちづくりの中に率先して取り入れ、テントの設営や災害時のマンホールトイレ、バーベキューグリルまで備えていた。また、SST 内に設置された様々な発電システム及び蓄電設備により、非常時には 3 日間の必要電力を賄うことも可能とのこと。こういった様々な先進的な取り組みは浜松市が学ぶところも大いにある。SST のモデルは、藤沢市をはじめ、大阪の吹田 SST、神奈川の綱島 SST など着実に広まっている。エネルギーを始めとした持続可能な都市の形成と新しい地域コミュニティの在り方を模索する上で非常に参考になる視察であった。



日時：2024年3月28日（木）10：00～12：00

視察先：宇都宮 LRT

目的：宇都宮市の交通政策の現状を視察し、LRT を導入のメリットやデメリット、運行開始後の課題等について調査し、宇都宮市の事例を参考に本市における未来の交通政策を模索する。

【要旨】

①宇都宮市が目指す街づくり

・宇都宮市も少子高齢化に伴い、社会環境が変化しており、今一度まちの在り方を見直しているところ。子どもから高齢者まで誰もが安心して住める街づくり、夢や希望が叶う街、スーパースマートシティを作っていくために、ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）を目指している。

・NCC とは、これまでの 都市の成り立ちを踏まえ、中心市街地に加え、それぞれの地域拠点、産業、観光拠点に街の機能を集約し、それらを LRT やバスなどの利便性の高い公共交通ネットワークなどで連携した持続可能な都市の姿。その構想の拠点、中間になるのが LRT。

・地域拠点、観光拠点、産業拠点など、こういうものを拠点化し、LRT をメインとした、バスや地域内交通で繋ぎ、その結節点にトランジットセンターを作っていくって結節機能を果たしていきたい。

・NCC を進めるにあたって、以下を強化していきたい。一つは、LRT の整備。宇都宮駅を起点に駅東側と駅西側とあるが、駅東側は 2023 年 8 月に開業。非常に順調に運営できている。今後の課題としては、駅西側の方に向けて延伸していくこと。二つ目に、LRT と重複するバス路線をうまく振り分けて、公共交通空白地域を解消していきたい。

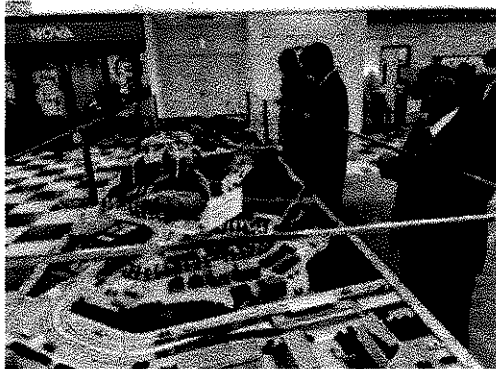


②LRTを導入した背景

・鬼怒川に掛かっている2つの大きな橋を越えたところに清原工業団地、芳賀・高根沢工業団地がある。これらの工業団地だけで約3万6000人の社員の方がおり、その70%の方が宇都宮から通っているということで、どうしても橋の大渋滞が課題だった。

・政権交代で5年ほどは構想が凍結された時代があったが、それを乗り越えてLRTがいいのか、モノレールがいいのか、BRTがいいのかなど、色々検討重ねてきた。CO2を排出しない点、1度に大量の輸送が可能という点、比較的設備が安価にできる点でLRTに決めた。LRTは当然電気で動いているため、一切CO2の排出はない。宇都宮市の場合、3両で1編成という形で約160人を乗せることができる。・宇都宮市の職員も何も皆がLRTを実現して欲しいとは思っておらず、どちらかといえば邪魔だと思っていた。市長が3回目の選挙の時に僅差で反対派に勝利し、そこから一気にスタートしたが民主党政権になって一時は止まってしまった。自民党政権に戻ってから再度始まったが、LRTなんか通るわけがないだろう、通したとしても乗る人がいないからすぐに赤字路線で廃止だと、市役所の職員も思っていた。しかし、通してみたら変わっていった。

・平成30年5月に工事着工し、2023年8月26日に開業。全線で14.6km、すべて複線。



③LRTについて

・LRTを採用するに至ったのは、専用空間を走行するため時間に正確であり、騒音や振動が少なく快適な乗り心地であるという点。これはレールを敷設する際に特殊な処理をして振動が出ないようにしている。車両が低床式で乗降が自由でしやすい。プラットフォームとの段差がほとんどないため、ベビーカーや車椅子でも非常にスムーズに乗降が可能。

・デザインコンセプトについては、普遍性、独自性、展開性の観点から本地域の気候風土の象徴である雷が最も望ましいとし、雷の恵と同様に、LRTが未来に向けて恵みを与えてくれる役割を担っていくものとして、「雷都を未来へ LRTによる未来のモビリティ都市の創造」と設定した。

- ・宇都宮市は非常に雷の多いところ。7月、8月になると毎日のように雷が鳴る。ただ、宇都宮市民は、雷は雨を降らせて稲穂を育てる水を運んできてくれるということで、雷様と呼び、雷を恵みの象徴というふうに捉えている。

- ・雷の黄色とその雷が育ててくれたイナゴの黄色、これをシンボルカラーとして作っている。したがって、駅の表示だとか電車の中も全てこの黄色と黒を基調として作っている。

- ・車両は新潟トランスで建造。

- ・事業方式は公設型上下分離方式で、軌道整備事業者は宇都宮市と芳賀町として、軌道施設や車両を整備保有し、維持管理の責任を持ち、宇都宮ライトレール株式会社が軌道運送事業者としてそれらを借り受け、運行サービスを提供。

- ・宇都宮ライトレール株式会社はそれほど多く費用的なものを負担してはいない。宇都宮市としては、今回かかった費用は基本的に20年のローンで払っていくということで、これは市の財政上でも1%行かない形での返済になるため、大きな問題はない。これを実施するために他の費用を削らなければいけないというようなことでもないため、こういう形で公設型上下分離方式を採用した。

- ・停留所は19箇所、全てが100%バリアフリー。トランジットセンターは6カ所、導入車両が3両で1編成、17編成を現在所有。

- ・2024年4月から快速運行を始める予定で、新たに2両追加して19編成となる予定。

- ・車両の長さは、3両全体で29.52m、車両定員は座席が50席、立席入れて全部で160人が乗車可能。

- ・概算事業費は684億円。負担割合は国が半分、宇都宮市と芳賀町が残りの半分を負担。第3セクターが担当してしまうと3分の1しか国から予算を取れないため、行政がしっかりと真ん中に入るといった形になっている。684億円の内訳は、軌道関係が611億円、車両関係が73億円。すでに開業から200万人を突破。

- ・吊り革は普通の丸い釣り革ではなく、長時間握っていても疲れないという四角にとした。

- ・ボックスシートにした理由は、電車が電動式のためモーターがどうしても車線の中にこう上がってくることが由来。背もたれの下にモーターが入っている。山手線形式のようなベンチ式の長いシートは作れなかった。

- ・特出するところは、ゼロカーボントランスポートの実現。全て電気でCO2は一切排出しない。その電気はどこきているかというと、家庭ごみの焼却によるバイオマス発電や家庭用太陽光などにより、発電された電気を宇都宮アライパワー株式会社がそれを全て調達し、LRTに送っていくという形を取っている。

・トランジットセンターでは、LRT が走っている駅に来たバス、それから市民が自宅から乗ってきた自転車や車、デマンド交通、これらがこの駅でしっかりと乗り換えができていくというような設備を作っていこうという考えで作った。トランジットセンターの駐車場は全て無料。予約制はしていない。利用者が多く、駐車場が足らなくなり、約 100 台の駐車スペースを追加した。本来はバス路線をこの隣のセンターに付ける形で新設したため、バスに乗ってきてもらえれば当初作った駐車場スペースで十分だろうと考えていたが、やはり宇都宮市は車社会で、皆さん、バスよりも車の方が便利だということで、車の利用が非常に多く駐車場が足らなくなったというような背景。

・駅の方に入ってきていたバスは全て廃止し、余ったバスを新しい路線に当てたり、もしくは今まであった路線で 1 時間に 1 本だったところを 2 本にするなど、バス路線の充実を図っている。

・IC カードとして、totra を作った。基本はあくまでも suica だが、宇都宮市として独自サービスとして、宇都宮市内で使う分には交通ポイントを 2% 付与したり、高齢者の外出支援事業ということで 70 歳以上の方については 1 年間で 1 万ポイントを渡している。

・1 日あたりの需要予測は、3 年後にこの数字であればなんとかこの会社は成り立っていくだろうということで予測していたが、今のところは想定以上に非常に順調に運行できている。

・運賃は 80 円～400 円で、400 円のところまでだと大体 45 分ぐらい乗車。運賃の値決めは日本で今、宇都宮入れて約 18 の路面電車が走っているがそういった他都市を参考に運賃を決めた。

・運転時間帯は午前 5 時～23 時ぐらいまで。宇都宮駅の新幹線の始発と終電に対応させていただき、幅広い時間帯で営業をしている。

・運行感覚は、オフピーク時 12 分、ピーク時が 8 分ということで運行している。昨今、現金収入よりも IC カード利用が非常に増えてきており、今や 90% 以上が IC 利用のため、乗降時間に時間がかからなくなってきている。そのため今後は運行感覚を見直していく予定。かなりスムーズに運賃収入もできている。

・1 日乗車券を 2023 年 12 月 6 日から発売したが非常に好評を得ている。



・マンションや運動公園もそうだが、企業の投資も増えて人口流入しているというのは、LRTによる経済効果が予想以上に出ている。市外から宇都宮へLRTを見に来るっていう人もいる。そこだけでも宿泊や飲食など経済効果は大きい。そういうところも総合的に勘案すると、投資額に見合うものであり、回収も可能。

・基本的に雪に対する対策はほとんど行っていない。宇都宮は1年間で3日程度しか積雪はない。

・運転手の採用は多すぎる応募がある。75年ぶりに完全に1からの新設ということで、長崎など全国各地から応募がある。今のところ運転手の不足はしてない。

・今のところ接触事故は3件のみ。今まで車社会だったため、右折の仕方がわからない方がいたことが要因。市民も慣れてきたためか、2024年になってから事故は1件もない。

・最新式の電車のため、様々な設備がついている。先日もあったが、運転手が途中で体調不良で倒れたことがあった。ところが、LRTには運転手の足元にペダルが3つあり、そのうちの左足のペダルは運転するときにずっと踏み続けてないと電車が動かない仕組みになっているため、体調が悪くなって足が外れちゃうと、電車はその場ですぐに停止し、一切動かなくなる。そういう意味では非常にいろんな面で安全面は考慮されている。

④課題について

・LRT実現のため、アドバイザーとして広島電鉄の方を招いて考えたり、用地買収も必要だったため、そもそも市がどういうことをやりたいのかを、いろんな地区、特に沿線地区の市民に、何度も市長が説明会を実施したり、富山まで全地区の方をお連れして乗車体験してもらったり、そういったところが大変だった。

・浜松には浜名湖があり、観光要素がいっぱいあるが、宇都宮は観光設備がないのがネック。

・反対派の方も多くいたが、街がこんなに開発されて、経済効果も出たということをLRTが運行して体感すると、反対派はほとんどいなくなった。懐疑的だった駅の西側の人達も、これなら西側もぜひ早くやってほしいという声を聞くようになった。新しい小学校ができて、850人もいきなり生徒が増える、町の人口が増える、地価が東口側だけ上がっているなどを目の当たりにすると説得力がある。

・従来のバス路線を変更、廃止することに対して、バスを運行する関東バスに理解してもらった。今では運営会社であるライトレール株式会社に出資もしてくれている。

⑤今後について

・平石駅前には、東日本で1番大きな運動公園が2年後に出来る予定。ラグビーやスケートボード等、オリンピックで有名になった競技ができるような形にする。

・西側にもオフィスビルや市街地の商店街があり、高校、大学もあるため通勤通学という需要は当然ある。全体として、市全体の公共交通を良くしていきたい思いがあるため、西側もしっかり通していきたい。

・宇都宮駅西側については、宇都宮駅西口から作新学院まで、まず5kmを整備期間として検討している。2035年ぐらいまでに開業させるという意向。その後はさらに郊外の大谷まで通したい。

・宇都宮市の場合、新幹線の駅で東と西が分断されており、どうしても発展にやはり差が出てくることがある。東側は非常に発展が遅れてきたところでもあるが、今回東側が発展したことで西側についても同様に発展させていきたい。



【所感】

黄色が映える真新しい車両が走る宇都宮市。TVで早くも200万人突破というニュースを見たところだった。ゼロから構想し、反対派の強い抵抗に遭いながらも市民への丁寧な説明を繰り返し、灯火を消すことがなかった市長の熱意がよく理解できた。すでにLRTが整備されている宇都宮駅の東側は全ての開発予定が終わっているわけではないが、未整備の宇都宮駅西側と比較すると令和と昭和の違いを感じた。宇都宮には観光資源がなく、働く方々の乗降者数を見据えたLRT整備だったが、予想を上回る乗降者数を達成しており、それ以外にも郊外の方が中心市街地に移り住んだり、LRT路線の付近にはマンションが新たに立ち並んだり、地価や上昇や人口増加など、非常に魅力が溢れる計画であり、メリットの多い事業だと実感した。浜松市には、浜名湖を始め、海や山、そして徳川家康公を始めとした神社、お寺などの多くの歴史遺産もある。それらへのアクセスを容易にするためのLRT計画を浜松市も検討しては良いのではないだろうか。浜松市で育った若者が県外へ出てしまい、浜松に帰ってこないその大きな理由の一つに、市内の交通アクセスの不便が上がっている。

これから浜松の未来を担う若者のためにも、未来の浜松の住みやすさ、在り方を考える上でも、浜松の新しい交通政策を考えると来ているものと感じ、宇都宮市でその先見性に触れられた気がした。引き続き、宇都宮市を始めとした他都市の交通政策について学びを深めていきたい。

令和6年3月29日

自由民主党浜松B班視察報告書

柳川樹一郎

視察日程 令和3月27日（水）～28日（木）

視 察 先 神奈川県藤沢市 Fujisawa SST マネジメント株式会社
栃木県宇都宮市 宇都宮ライトレール株式会社

視察項目 ・ 藤沢サステナブルスマートタウンのマネジメント・防災、カーボンニュートラル、ウェルネス等のまちづくりの実情について（藤沢市）
・ LRTを導入するに至った背景や路線ルートの検討手法（藤沢市）
・ 運行を開始し、実際の市民の反応や運航の課題（宇都宮市）
・ 交通政策における今後の展望など（宇都宮市）

視 察 日 令和6年3月27日（水）

視 察 先 藤沢市 Fujisawa SST マネジメント株式会社
藤沢市 SST（Fujisawa サステナブルスマートタウン）
Fujisawa SST SQUARE

視察内容 タウンマネージメント・防災・カーボンニュートラル・ウェルネス等のまちづくりの実情

説 明

生きるエネルギーが生まれる街をテーマにまちづくりが計画されていました。100年先も「生きるエネルギー」が生まれる街になるように、住宅、商業施設健康・福祉・教育施設、公園、街区などを理想のもとに計画したとのことでした。5つの生きるエネルギーにそれぞれのテーマがセットしてありました。

Fujisawa Energy「太陽」という生きるエネルギー

藤沢の光と風を街丸ごと生かす街、自然のエネルギーと「創エネ・蓄エネ・省エネ」などの先進技術のハイブリットによって、自産自消のエネルギーマネジメントを実現、もしもの時も希望の明かりをともし街

東日本大震災を経験したことによる、電力の重要性を、身をもって実感していることです。

Fujisawa Security 「安心」という生きるエネルギー

街のみんなの安心・安全を見えないゲートで守る街（バーチャル・ゲートタウン）という、新しいセキュリティサービスで、安心安全な暮らしを実現
街の全体が約 50 台のカメラにより見守られている。



藤沢 SST の記念すべき 40,000 人目の来訪者となりました

Fujisawa Mobility 「行動」という生きるエネルギー車に乗る人もエコになる、「トータル・モビリティライフ」

車に乗らない人もアクティブになる街、電気自動車 (EV) や電動サイクルシェア、レンタカーデリバリー等を使い分けて提案・提供をする。さらに、電動自転車のバッテリーが街のいたる所で充電できるシステムになっています。

Fujisawa Wellness 「健康」という生きるエネルギー

街にかかわるすべての人が、ふれあいながら健康になる街、日常の生活の中で街にかかわるすべての人がふれあいながら健やかになれるくらしを提供する。

医療・看護・介護・薬局が連携し、シームレスなサービスを提供する。さらに、「地域包括ケアシステム」を導入している。

Fujisawa Community 「つながる」という生きるエネルギー

住人、周辺住民、街で働く人、みんながつながる街、未来へと価値がつながっていく街です。必要な情報をポータルサイトで、ワンストップで提供。人と人が人と街がつながり合えるコミュニティを実現。

街の人々や、地域の情報とつながることができるネットワークを使った先端サービスを子供からお年寄りまで誰でも手軽に享受できる。そんなコミュニティ・プラットフォームを提供しています。住んだその日からすぐに利用できます。住人によって運営される次世代型自治組織「Fujisawa SST コミュニティ」などを通じて、リアルなコミュニティ活動も活性化させていきます。

所 感

以上5項目に対し説明を受け、街の様子を見学しました。公園では、子供たちがボール遊びをしたり野球をしたりしていました。まさに新興住宅地域でした。

Fujisawa SST を視察させていただき、まさに未来都市・未来の街といった創られた都市型住宅団地と感じました。

本市の市営住宅団地において、団地の在り方の根本を新たな意識づけのもと、サステナブル・スマートにしていく方策を早く取り入れていく必要があると思います。



視 察 日 令和6年3月28日(木)
視 察 先 栃木県宇都宮市 Fujisawa SST マネジメント株式会社
調査項目 ・LRTを導入するに至った背景や路線ルートの検討手法
・運行を開始し、実際の市民の反応や運航の課題
・交通政策における今後の展望など



説 明

LRT 導入に際しては、浜松市と同じ時期に導入についての検討がスタートしました。宇都宮においては市長が推進派で、市長選挙の公約にまでなったものだそうです。

ルートの選定には、工業団地と都心部を結ぶもので、工業団地の朝夕の通勤には欠く事の出来ないものとして計画されました。工業団地の有力企業には、ホンダがあります。

運航を開始してからの市民の反応や課題は、運営会社としては、朝夕は、乗客の利用者あるが、日中は空気を運ぶものになることを一番心配していたと言う事です。しかし、運航開始と同時に乗客は予想以上となっていると言う事です。ピーク時には、6分間隔で運行しており、オフピークでも10分間隔で利用者を待たせないようにしているとのことでした、保有車両は17車両で、2車両を増やすことになっているとのことでした。宇都宮のLRTは車輪の軌道幅がJRの軌道幅と一緒にっており、日

光への日光線乗り入れも視野にしていることでした。

事業費と財源については、総事業費が 684 億円で、国補助が 326 億円、市負担が 358 億円とのことです。

最寄りの駅からはフィーダーバスが出るなど、公共交通活性化や地域の振興に大変有益であると市民からは大変喜ばれているとのことです。

現在では駅の西側へのルートを早く施工してくれないかという声が高まっているとのことです。



駅西側へのアクセスについては、JR 東北線と JR 東北新幹線を高架で超えるという難題が問題と言っていました。このことが将来日光への観光ルートに結び付ける大きな目的があり、日光線への延長計画にもつながるものと思いました。元来、宇都宮市には、観光地といった名所や施設がなく観光の意識をこの際高めようとしていました。LRT の開通によって、日本中に宇都宮をアピールすることができました。LRT に乗ってみよう、LRT をこの目で見てみよう、観光客が来るようになってきたそうです。今や LRT が宇都宮市の観光に欠く事のできないインパクトのある事業ですと言われていました。さらに、LRT の路線ルートによる沿線の開発が進み、地域振興が目を見張る勢いだそうです。

所 感

本市においては、以前より LRT の構想がありました。市民団体の皆さん、浜松市議会においても超党派で推進議員連盟まで立ち上げ活動をしたものです。

私は、議員連盟の会長ということもあり、議会質問で LRT の模型を議場に置き質問したことがあります。また、地域においても地元説明会まで開催しました。しかし、が、冬至の市長ならびに市当局からは、その活動と計画に理解を得ることができず、LRT 実現には至っておりません。今思うと、もう少し頑張ればと反省するところです。

以上視察報告とします。

期 間：令和6年3月27日(水)・28日(木)

視察先：神奈川県藤沢市「藤沢 SST(サスティナブルスマートタウン)」

栃木県宇都宮市「LRT 宇都宮ライトレール」

1. 神奈川県藤沢市「藤沢 SST(サスティナブルスマートタウン)」

目的：2014年11月の開設から10年となる藤沢 SST について、タウンマネジメントやカーボンニュートラルの取り組み、ウェルネス等の街づくりの取り組みについて伺うとともに現地を視察した。

説明：藤沢 SST のプロジェクトパートナー企業の共同出資による運営会社である Fujisawa SST マネジメント株式会社の■■■■氏より事業の概要説明並びに現地の案内をして頂いた。

藤沢 SST は、東京から電車で1時間と好立地にある。コンセプトとして、生活インフラとしてのエネルギー、そしてイキイキと活力を生み出すバイタリティを持ち、「生きるエネルギーが生まれる街」を掲げている。

1961年に松下電器産業が関東に初進出し2007年に工場としての役目を終えたパナソニック藤沢工場の跡地活用としてエコ&スマートな街づくりとしてスタートした。19ヘクタール(190,000㎡、東京ドームの4倍強)の土地に複合型スマートタウンとして2024年の完成を目指し開発が進められてきた。現在、パナソニックを代表幹事会社として18の企業・団体による藤沢 SST 協議会でこのプロジェクトを推進している。



コンセプトを実現するため数値目標とガイドラインを設定しており、環境目標としてCO2の70%削減と生活用水の30%削減など、エネルギー目標として再生可能エネルギー利用率30%以上など設定し、プロジェクトガイドライン、タウンデザインガイドライン、コミュニティデザインガイドラインを設定している。

実現のための5つのスマートサービスを提供している。

- ① エネルギーサービスとして「創エネ・蓄エネ・省エネ」であり、すべての住戸に太陽光発電と蓄電池、エネルギーマネジメントシステムを標準装備とし、CO2 排出削減、災害時3日間のライフラインを確保し、街全体のエネルギー情報が見える化施設伝意識を高めている。
- ② セキュリティサービスとして街の出入り口を限定する街路設計を取り入れ、ホームセキュリティの導入、セキュリティコンシェルジュによる巡回、バーチャルゲテッドタウンによるサービス導入で安全安心を確保している。
- ③ モビリティサービスとして電気自動車や電動アシスト自転車のシェアリングサービスの導入などしている。
- ④ ウェルネスサービスとして全ての世代が一生健康で豊かに暮らせる藤沢 SST 版地域包括ケアに取り組んでいる。



- ⑤ コミュニティサービスとして街の情報がワンストップでつながるポータルサイトの提供がされている。

タウンデザインとして湘南の光と風を取り込むため風の道を設け、街全体を緑で包み込む設計となっている。

街を支える3つのスクエアがあり

- ① 住人の活動拠点となる「藤沢 SST スクエア」
 - ② 街の人々が触れ合いながら健やかになる「ウェルネススクエア」
 - ③ 宅配の未来の発信地となる一括発送を実現する「ネクストデリバリースクエア」
- から成っている。

2024年の秋にはアクティブシニアレジデンスや多機能コミュニティスポーツ施設が開業し、多世代が集う街の更なる可能性が広がる。スマートインフラとして、都市ガスも含め災害時にも安定供給を可能にし、電灯や通信等の回線の地中化により美しく災害に強い街づくりに向けてエネルギーインフラの構築を目指している。

「共創」により住民・企業・自治体・大学等が知恵を出し合って連携し、変化する社会課題に適応し進化し続ける街づくりに取り組んでいる。また、「まち親」プロジェクトとして住人や周辺住民などみんなが主役となって参加できるコミュニティ活動が行われています。

この後、藤沢 SST 内を歩きながら様々な街の仕掛けを案内頂いた。公園で遊ぶ子どもたちの歓声が響き、無人の配送ロボットカーが走り、電動アシスト自転車を誰もが利用できる「みんなモビ」があり、店舗も賑わっている。公園のベンチは災害時にかまどとして利用でき炊事ができ、防災トイレ設置可能なマンホールの設置、東屋は屋根に太陽光パネルが施され周囲にシートを張ることで休憩施設となり、集会所の屋上は見晴らしがよく災害時に避難施設となるなど工夫が凝らされている。公園横にある三井不動産のモデルハウスは、住めば自ずとエネルギーがうまれる家をコンセプトに作られており、SDGs の取り組みやコロナ禍による新しい生活様式、カーボンニュートラルの推進など社会課題の解決を目指して開発されている。遊歩道から直接入れ住民やお客様と玄関を介さずコミュニケーションを取れる「縁側テラス」は植栽により外部からの視線にも配慮されている。2 階のベランダの柵に取り付けられ

た透明なペロブスカイト太陽光発電装

置、EV 車の電気を住宅に繋げられる蓄電システム (eneplat)、全館空調熱交換気システム(ウイズエアー)、ストレス解消のためのエクササイズができるデジタルミラー(ミロモ)、有機 EL を使っ

た透明のディスプレイなど様々な提案がなされている。



所感：無人自動配送ロボの「湘南ハコボ」が FSST 内を走り、快適な暮らしを実現するための機器や仕掛けが揃い、行政も加わっての新しい時代の先進的な実証実験の街は住んでみたいと思わせる。藤沢 SST 構想が発表されてから 13 年、事業着手から 12 年が経過し常に進化し続けており、パナソニックを中心とした藤沢 SST 協議会加盟の 18 の企業・団体によるエネルギー、セキュリティ、モビリティ、ウェルネス、そしてコミュニティの連携協力体制が

大きく効果を上げている。一方でタウンミーティングやイベントの開催により住んでいる皆さんが街づくりに積極的に関与し新しい事業の創出にも繋げており、素晴らしいと感じる。全国各地でも企業と行政によるスマートシティ構想が進められており、F S S T が、単なる生活を豊かにする都市づくりに収まらず人間中心の街づくりであり、他都市のモデルとなっている。

2. 栃木県宇都宮市「LRT 宇都宮ライトレール」

目的： 新しい路線として LRT を開通させ、まちづくりに繋げている芳賀・宇都宮 LRT 事業について開設までの経緯や運営等に伺うとともに現地を視察した。

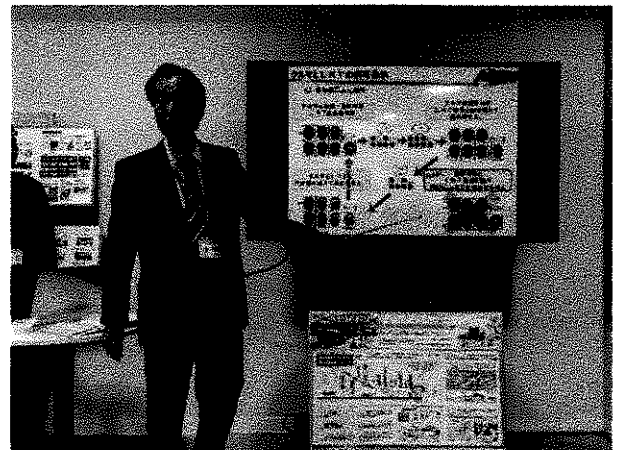
説明：

・宇都宮市の街づくりについて

社会環境の大きな変化に対応するため NCC(ネットワーク型コンパクトシティ)を目指し、その中心を LRT が担い、細部をバスや地域内交通が繋いでいくことを構想し、バス事業者とも連携を図りながら結節点となるトランジットセンターを整備していくとしている。

・芳賀・宇都宮 LRT 事業の概要

校外の工業団地に通う方は 36,000 人おり、70%の方が宇都宮方面から通勤しており朝夕の渋滞が課題であった。新交通システムについてはモノレールや BRT など様々あったが、CO2 の排出がなく、大量輸送が可能で他より安価にできる LRT に決定した。車両は 3 両一編成で 160 人の輸送ができる。軌道法に則り時速 40km で運行しているが、今後、鉄道法に則り 70km での運行も検討している。レールを埋設や車輪には特殊ゴムを採用し振動や音の軽減を図り、低床式で乗降しやすいようプラットホームの段差も



バスと同じようにしている。デザインについては使用するフランスのストラスブールの LRT をモデルとしている。路線は宇都宮駅東口から芳賀・高根沢工業団地間の 14.6km ですべて複線であり、19ヶ所の停留所が設けられている。運行時間は 5 時台～23 時台、所要時間も約 44 分となっているが、新幹線の始発と終電に対応していきたい。運行間隔はオフが 10 分間隔でピーク時には 6 分間隔としていくが、運行間もない現在は、オフが 12 分間隔、ピーク時が 8 分間隔での運航を行っている。運賃支払いが現金から ICT カードになりつつあり 90% 以上となってきている。運賃は初乗り 150 円から 400 円になっている。事業は、平成 30 年 5 月に工事着工し去年の 8 月に開業している。公設型上下分離方式を採用しており、軌道は宇都宮市と芳賀町が担い、運行事業を宇都宮ライトレール(株)が担っている。車両は 17 両を所有しており、快速運行も予定しており 2 両追加し 19 両の所有をしている。車両一編成(3 両)は 29.52m で軌道法上の 30m 以内となっており、乗車定員は 159 人となっている。

LRTの概算事業費は、684億円で国の補助が約1/2で326億円、市町の負担が約1/2で358億円となっている。軌道関係で611億円、車両関係で73億円を使っている。利用状況は昨年8月26日の開業してから通勤利用を基本に順調に伸びている。車両のデザインは、雷の多い地域であり、雨を降らせ稲を実らせ恵の象徴として捉えており、雷と稲穂の色である黄色をシンボルカラーに据え、外装や内装など様々なデザインに使用している。使用する電気もごみ処理処理場のバイオマス発電と各家庭の太陽光発電を宇都宮ライトパワーが調達しLRTで使っている。今後は市内バスやタクシーもEV化し利用することも想定している。トランジットセンターは6か所に設け、バス・タクシーや自動車、自転車など乗り継ぎする交通結節点として整備している。トランジットセンターを起点として新しいバス路線も開設している。信用乗車方式を採用しており、すべてのドア付近にICカードリーダーを設置しスムーズに乗降ができる方式を採用している。地域連携ICカード「totra(トトラ)」を導入し、Suica機能に加えて独自ポイント付加や高齢者の外出支援など地域独自のサービスを展開している。LRTは、信号表示に従って自動車やバスと同じように道路を走りますが、快適な運航に向けてLRT専用の信号表示が点くようになってきている。



今後、新幹線宇都宮駅で東西が分断され西側の発展が遅れていたが、宇都宮駅西口から西側に向けて5kmについて2035年ぐらいの開業を目指し事業化を検討している。

このあと、実際にLRTに乗車させて頂き、車両基地のある電停「平石」まで行き、車両基地を案内して頂いた。LRTの始発駅のある宇都宮駅東口周辺の再整備で中心市街地としての賑わいもあり、活気のある街となっている。「平石」電停の周辺は田や畑が広がる調整区域であり忽然とLRTが通り電停ができた感があり、電停近くにはスポーツ施設の建設も決まっているとのことで、LRT開通による周辺開発も進み、公共交通としての市民の足の確保とともに新しい街づくりが始まっている。



所感：浜松市議会でも超党派で地域公共交通活性化推進議員連盟を結成し、民間や大学と連携しながら、LRT導入に限らず徒歩から自転車、バスやタクシーなど公共交通との連携など地域公共交通に関する調査研究そして浜松に相応しい公共交通の在り方を提案してきた経緯がある。宇都宮市と浜松市の状況が似ていたこともあり、宇都宮市のLRT導入に向けた民間団体との意見交換や交流もさせて頂いた事もある。市民からも夢があり地域課題の解決にもつながる計画として導入に向けて関心が高かった。しかし、市長の考え方には大きな違いがあり浜松では計画の検討すら進むことはなかった。理由は、いろいろとあったが投資金額が大きく効果も見込めないことが大きいとのことであったが、今回の宇都宮市の事業を見聞き、政令市の中で公共交通分担率が最も低い浜松における市民の足の確保や観光振興、街づくり

などに繋がる計画である。また、本市が目指す「拠点ネットワーク型都市構造」として市内の拠点間を結ぶコンパクトな街づくりに繋がり、健康で快適な暮らしが提供でき持続可能な街づくりを進めるためにも新交通システムとしての LRT 導入等も含めた計画の検討をすべきであると改めて感じる。